VOX

Valvetronix

ギタリストのための
ガイドブック

Ⓙ ③

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的は注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。**
  - ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  - ○ 異物が内部に入ったとき
  - ○ 製品に異常や故障が生じたとき

  修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへ修理を依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。**
- **電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。**
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に液体の入ったもの（水や薬品等）を置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**

- **電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていませんので、製品を使用しないときは電源プラグをコンセントから外してください。**

- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が転倒する危険性があります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

＊Valve Reactor技術は米国特許を取得しています。他国特許申請中です。（2001年7月現在）

＊掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

保証規定（必ずお読みください）

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より１ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
   - ・消耗部品（スピーカー、真空管、電池など）の交換。
   - ・お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - ・天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
   - ・故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - ・不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - ・保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - ・本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より３ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめ最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへご相談ください。運送にかかる往復の費用はお客様の負担とさせていただきます。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損傷につきましては、弊社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

アフターサービス

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

お客様相談窓口　TEL 03(3799)9086

●サービス・センター:
〒143-0001
東京都大田区東海5-4-1 明正大井5号営業所コルグ物流センター内
TEL 03（3799）9085

●名古屋営業所:
〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51
TEL 052（832）1419

●大阪営業所:
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F
TEL 06（6374）0691

●福岡営業所:
〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F
TEL 092（531）0166

WARNING!

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です）

輸入販売元: KORG Import Division
〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12
URL:http://www.korg.co.jp/KID/

保証書

本保証書は上記の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げ日から満1年の間に万一故障が発生した場合は、お買い上げの販売店に製品と本保証書をご持参の上、修理を依頼してください。

型 名（ご記入ください）_____

製 番（ご記入ください）_____

お買い上げ日　　年　　月　　日

販売店名

目 次

はじめに 1

ようこそ! 1

Valve Reactor技術とは? 1

「説明はもういいからギターを弾かせてよ!」と言いたい人のためのクイックスタート編 3

32のプリセット・プログラムを試してみよう 3

その他のプログラム 4

バンクの切り替え 5

ギタリストのためのパネルツアー（各部の名称と機能） 6

A. トップ・パネル 6

B. リア・パネル 15

プログラムの選択、作成、保存（プログラム・セレクト・モードとマニュアル・モード） 17

プログラム・セレクト・モード 17

プログラムの呼び出し 18

プログラムの切り替え 18

カスタム・プログラムの作成と保存 19

ORIGINAL VALUE（オリジナル・バリュー）LED 20

マニュアル・モード 22

マニュアル・モードへの切り替え 22

マニュアル・モード設定の保存 22

マニュアル・モードの終了 22

チューナー・モード 23

アンプ内蔵チューナーでギターをチューニング 23

サイレント・チューニング・モード 24

チューナーのキャリブレーション調整 24

プリセット・プログラム・メニュー 25

工場プリセット・プログラムの内容 25

プリセット・プログラムの設定 27

工場出荷時のプリセット・プログラムの呼び出し 28

プリセット・モデルの説明 29

A. ペダル・エフェクト 29

B. アンプ・モデル 31

故障とお思いになる前に 40

仕様 42

はじめに

ようこそ!

このたびはVOX ValvetronixアンプAD60VT/AD120VTを選びいただきまして、誠にありがとうございます。

本機を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保存してください。

それでは、本機の様々な素晴しいギターサウンドをご堪能ください。

Valve Reactor技術とは?

本機VOXコンボのパワーアンプを駆動するValve Reactor回路は、斬新な技術を基に作られました。
音作りとトーン・シェーピングのほとんどはデジタル領域で行いますが、Valve Reactorパワーアンプは100%アナログです。ギター信号がアナログ領域であるパワーアンプ段を通過することによって、モデルとなったオリジナル・アンプの感触やトーンを作り出す上で重要な役割を果たすことになります。

Valve Reactorのパワー段は真のチューブ、プッシュ/プル式パワーアンプのミニチュア版です。これは12AX7チューブ(デュアル三極管、つまり2つの真空管を一つにしたもの)を使用し、出力トランスフォーマーを搭載した真のチューブアンプと似ています。直接スピーカーに接続するのではなく、このトランスフォーマーを特殊設計したVariAmpパワー回路に接続します。これはチャンネルごとのトランスフォーマーの出力量を最低レベル(1ワット)から最大出力60ワットまで上げます。

このVariAmpパワー回路段は完全に透明、つまり信号を変化させないので、出力されるトーンは純粋にチューブアンプのサウンドとなります。また従来のチューブアンプに見られるワイドなダイナミックレンジもそのまま保持されます。このダイナミックレンジはソリッドステートのアンプではなかなか出せない特性で、同じ出力の仕様でもソリッドステートアンプに比べてチューブアンプの方がパワフルに聞こえるのは、この特性のおかげです。

Valve Reactorパワーアンプの出力は、接続されているスピーカーシステムの絶えず変化しているインピーダンス曲線を「読み取り」、この情報を出力トランスフォーマーにフィードバックするように設計されています。この点も実際のチューブアンプと似ています。この情報によってアンプのチューブ段での動作がスピーカー負荷(インピーダンス)に応じて変化します。これもまた、真のチューブアンプのサウンドを形成する大切な要因となっています。

生き生きとしたチューブサウンドを生み出すだけでなく、モデルとなったアンプの全チューブパワー段に独特の、様々な「回路特性」をシミュレートすることができます。この特性とは、A級、A/B級、プレゼンス、レゾナンス(ロー・エンド)回路(いずれも一部チューブアンプの持つ負帰還回路に見られるもの)、パワー出力などです。このような特性(ただしユーザーが設定するパワー出力は除く)を調整することにより、アンプ・モデルの一つ一つのサ

ウンドが忠実に再現できるのです。この点が、「あのサウンドに近いけどやっぱり本物じゃない」という巷のデジタル・モデリング製品とは異なる部分です。米国特許取得済みのこのパワーアンプ技術はVOX Valvetronixアンプだけのものです。

以上、いろいろと説明してきましたが、これを証明するには実際に音を出してみることです。早速ギターを手に数々のサウンドを体験、探究してみましょう。

「説明はもういいからギターを弾かせてよ!」と言いたい人のためのクイックスタート編

取扱説明書を読むのは、塗ったペンキが乾くのを待つときのように「あくび」が出てしまう人も多いでしょう。そこで、新しいアンプを一刻も早く使ってみたい人のために、このクイックスタート編を用意しました。

また本書には、Valvetronixアンプを最大限に活用する上で役に立つ内容が記載されていますので、クイックスタート編でとりあえず弾いてみてホッとしたら、必ず本書の残りをお読みください。

> **ヒント:** 本書の裏表紙にある折り込みを見てください。この折り込みにはトップ・パネルとリア・パネルの図がありますので、これらを見ながら操作してみてください。

32のプリセット・プログラムを試してみよう

1. 本機の[MASTER]（マスター）ボリュームを最小レベルに設定します。

2. 付属の電源コードをリア・パネルのAC電源端子に接続してから、コードのもう一端をコンセントに接続します。

3. リアパネルの[POWER SELECT]（パワー・セレクト）コントロールでパワーアンプの出力ワット数を切り替えます。

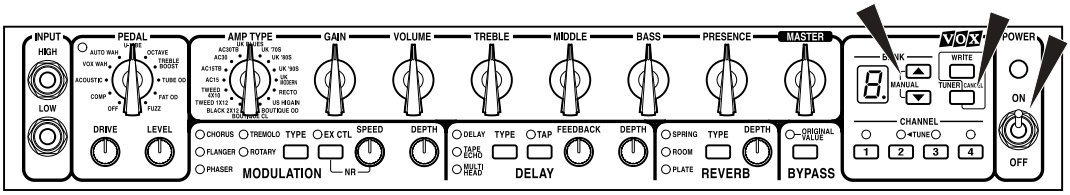
4. ギターをトップ・パネルのINPUT（インプット）[HIGH]または[LOW]端子に接続します。高感度、低感度の端子で、どちらがよいかわからないときは[HIGH]に接続してみましょう。

   ここで二通りの方法があります。Valvetronixアンプ内蔵の32個のプリセット・サウンドをチェックするか、ご自分のサウンドをゼロから作ってみることです。
   どちらも簡単にできますが、ここではより簡単な方法を取って、プリセットの音出しをしてみましょう。ご自分の音をすぐに作ってみたいという方は、19ページの「カスタム・プログラムの作成と保存」をお読みください。

5. プリセット・プログラム“ 1-1: Flying High ”を試してみましょう。これはファットで高ゲインの弾きやすいリードギター・サウンドです。
   まず次の手順で工場プリセットにアンプをリセットします。

   > **注意:** アンプをリセットすると、保存してあったカスタム・プログラムは全て消去されます。初挙された後では取り戻せませんので、十分慎重に行ってください。保存しておきたい設定がある場合は、裏表紙の折り込みにある「プログラム・シート」に設定内容を書き留めておいてください。

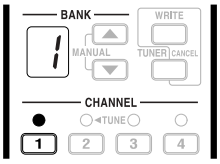
6. バンク・ディスプレイの右にある[▲]/[▼]キーと、その隣にある[TUNER/CANCEL]（チューナー / キャンセル）キーを押しながら[POWER]スイッチをONにします。
バンク・ディスプレイには P が点滅します。



7. ここでバンク・ディスプレイに P が点滅しない場合は、電源をOFFにしてもう一度試してください。
電源スイッチをONにするときには、必ず先ほどの3つのキーを全部同時に押したままにしてください。

8. [TUNER/CANCEL]キーの上の[WRITE]（ライト）キーを押します。
バンク・ディスプレイとCHANNEL SELECT（チャンネル・セレクト）キーのLEDが点滅します。点滅が停止したらリセットは完了です。初期設定としてプログラムの“ 1-1 ”がすでに選択されています。ギターのピックアップ・セレクターをリード（ブリッジ）に設定しボリュームとトーン・コントロールを一杯に上げます。

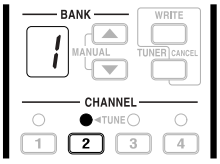
ヒント: Valvetronixアンプには32のプリセット・プログラムが入っています。8つバンクにそれぞれ4チャンネル（8 x 4 = 32）あります。バンク・ナンバーはバンク・ディスプレイに表示され、チャンネル・ナンバーはCHANNEL SELECTキーの上にある4つのLEDで示されます。つまり“ 1-1 ”のプログラムでは、バンク・ディスプレイに1が点灯し、CHANNEL SELECT [1]キーの上のLEDが点灯します。



9. アンプの[MASTER]ボリュームを適宜上げます。

その他のプログラム

10. プログラム“ 1-1: Flying High ”のサウンドを堪能したら、次はプログラム“ 1-2: Def Tone ”を試してみます。
これはフロント（またはリズム）・ピックアップにベストな水々しいクリーンなプログラムです。CHANNEL SELECT [2]キーを押して選択します。



11.次のプログラム“ 1-3: Breakin ’ Stuff ”はCHANNEL SELECT [3]キーを押します。
これはその名の通りファットで攻撃的なモダン・クランチ・サウンドです。ギターのリード（ブリッジ）・ピックアップに切り替えてヘヴィーなリフを弾いてみましょう。

12.パワーに圧倒されたプログラム1-3に比べてメローなのがプログラム“ 1-4: Tie Mama Down ”です。CHANNEL SELECT [4]キーを押して選択します。
これはクラシック・ロックの代名詞にもなったVOX AC30の堂々たるサウンドです。

バンクの切り替え

これまでプログラム1-1、1-2、1-3、1-4を試してみましたが、次はバンク2のプリセットを選択します。

13.バンク・ディスプレイの右にある[▲]キーを1回押すと、バンク・ディスプレイに数字の2が点滅します。
ここでCHANNEL SELECT [1]キーを押すとプログラム“ 2-1: Clean Edge ”が選択されます。

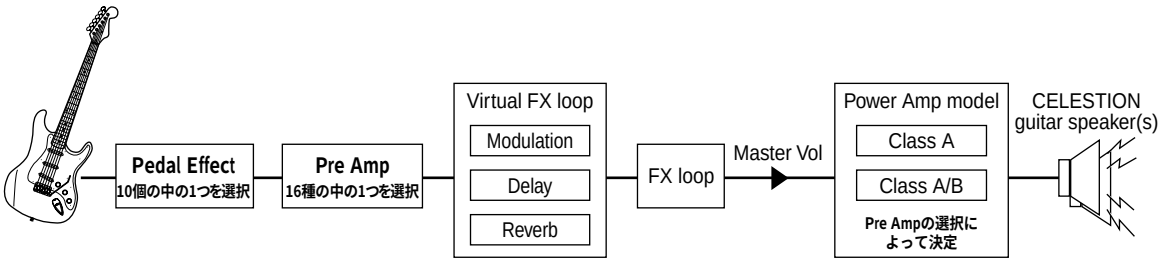
> **ヒント:** バンク・ディスプレイに“ 2 ”が点滅中は、プログラム1-4がまだ有効になっています。つまりバンク間でプリセットを選択する場合、CHANNEL SELECT キーを押すまでは次のプログラムに切り替わらないので、サウンドもスムーズに継ぎ目なく移行します。
>
> **ペダルの活用法:** 別売のVC-4 VOXフット・コントローラを使用すると、32個のプログラムをスムーズに次々と切り替えることができます。

14.上記の要領で残りのプリセット27個も弾いてみましょう。
プリセット・プログラムのリストは27ページをご覧ください。

ギタリストのためのパネルツアー（各部の名称と機能）

本章ではValvetronixアンプのトップ/リア・パネル上のキーや端子類について説明します。
キーやボタン類の並び方は、ギターに接続する各種機材と同じように設計されています。つまり信号経路が以下の順序で通過していきます。

ヒント: 裏表紙の内側にアンプのトップ・パネル、リア・パネル等のイラストを綴じ込みました。必要に応じてそちらを参照してください。



注意: アンプの天面にある通気孔は、アンプ内部の熱を逃がすためのものです。アンプを効率よく動作させるには、ここに物を置かないでください。
また、通気孔に物を入れたり液体等をこぼすと、火災等の原因や本体の故障にもつながりますので注意してください。

A. トップ・パネル

1. INPUT（インプット）セクション

ギターを接続します。HIGH、LOWの2種類の端子があります。

[HIGH]（ハイ・センシティビティ）
シングル・コイル等の出力の低いピックアップを持つギターを接続します。ただしこれを無視して高出力ピックアップのギターを接続するギタリストも多いようです。ラウドで押しの強いギターサウンドになるからです。

注意: 高出力ピックアップのギターを[HIGH]端子に接続してペダル・エフェクトのACOUSTICを選択すると、ギターの音量を抑えても不快な高域のディストーションがかかってしまいます。これは故障ではなく、ペダル・エフェクトをかけすぎているという証拠です。その他のアコースティック・シミュレーション・ペダルやアコースティック・エミュレーション・チャンネルでも同様の問題が生じます。エレキギターでアコースティック・ギターのサウンドを出すには、高域をかなりブーストする必要があるので、ドライブをかけすぎると、このような高域ディストーションが生じてしまうわけです。

[LOW]（ロー・センシティビティ）
ハム・バッキングやアクティブ・ピックアップなどの出力の高いピックアップを持つギターを接続するのが普通ですが、特に原則はないのでいろいろ試してみるのもいいでしょう。

2. ペダル・セクション

ペダル系エフェクトを設定します。10種類から選択でき、どれもクラシックなペダル・エフェクトをモデルにしているので、ギターアンプの前に接続します。選択すると左上の赤いLEDが点灯します。プログラムを呼び出してもLEDが点灯しない場合、PEDALセクションはOFF（バイパス）になっています。

以下のペダル・エフェクトがあります。

COMP: コンプレッサー
ACOUSTIC: アコースティック・シミュレーション
VOX WAH: VOXのクラシックワウV847
AUTO WAH: オートワウ
U-VIBE: ユニ・バイブ
OCTAVE: オクターブ・ディバイダー
TREBLE BOOST: トレブル・ブースター
TUBE OD: チューブ・オーバードライブ
FAT OD: ファットで威勢のいいオーバードライブ
FUZZ: ホット＆強烈

[PEDAL]（ペダル）セレクター

10種類のペダル系エフェクトから選択します。ペダル・エフェクトを使用しないときはOFFを選択します。各ペダル・エフェクトの説明（29ページ）を参照してください。

ペダルの活用法: 別売のVC-4 VOXフット・コントローラを接続すると、VC-4のインディビジュアル・モードでペダル・エフェクトのオン/オフができます。その他にもペダルの活用法がいろいろあるので、持っていると便利です。

ペダルの活用法: VOX WAH、U-VIBEを選択した場合、VC-4 VOXフット・コントローラでワウ、ビブラートがコントロールできます。

[DRIVE]（ドライブ）ツマミ

TREBLE BOOST、TUBE OD、FAT OD、FUZZを選択したときのエフェクトのドライブ（ゲイン）を調整します。それ以外の6種類のペダル・エフェクトでは、そのエフェクトによって機能が異なります。

以下の表を参照してください。

ペダル・エフェクト	[DRIVE]ツマミ	[LEVEL]ツマミ
COMP	感度	レベル
ACOUSTIC	高域	低域
VOX WAH	ペダル	なし
AUTO WAH	アタック	感度
U-VIBE	スピード	ミックス
OCTAVE	ダイレクト・レベル	オクターブ・レベル
TREBLE BOOST	ドライブ	レベル
TUBE OD	ドライブ	レベル
FAT OD	ドライブ	レベル
FUZZ	ドライブ	レベル

[LEVEL]（レベル）ツマミ
COMP、TREBLE、BOOST、TUBE OD、FAT OD、FUZZのレベルを調整します。VOX WAHでは使用できません。その他5つのペダル・エフェクトの機能については前述の表を参照してください。

3. プリアンプ・セクション

Valvetronixコンボのプリアンプの設定を行います。VOXの伝統を受け継いだ「チキン・ヘッド」の形をしたポインター（ツマミ）です。ソフトタッチのコントロール・パッドや上下のカーソルは、コンピュータではないのでこの畏れ多いトーン・シェーピングの聖域には使いません。

[AMP TYPE]（アンプ・タイプ）セレクター
伝説的なVOX AC30TBXをはじめとするクラシックなチューブ・アンプを忠実に再現した16種類のアンプ・モデルから選択します。オリジナル・アンプのプリアンプ回路のゲイン/トーン特性を正確に再現しただけでなく、パワーアンプの動作（A、A/B級）、負帰還回路など、重要なパワーアンプ段も入念に再現されています。プリアンプだけに焦点を当てパワーアンプを無視しては、アンプのモデル化などと胸を張って言えません。どんなにイキのいいネタを使っても肝心のご飯がまずければ「このお寿司おいしいねえ」なんて言えないのと同じです。パワー段はどんなアンプでも重要な部分です。

以下のアンプ・タイプがあります。

VOX AC15	UK MODERN
VOX AC15TB	RECTO
VOX AC30	US HIGAIN
VOX AC30TB	BOUTIQUE OD
UK BLUES	BOUTIQUE CL
UK '70S	BLACK 2x12
UK '80S	TWEED 1x12
UK '90S	TWEED 4x10

各アンプ・タイプの詳細は33ページを参照してください。

[GAIN]（ゲイン）コントロール
選択したアンプ・モデルのプリアンプ・ゲインを調整します。

> **注意:** UK MODERN、RECTO、US HIGAINなどは、ゲインを一杯に上げてもおかしくありませんが、BOUTIQUE CLEAN、TWEED 1x12、AC15などは、ゲインが低くてもソウルフルなサウンドを生み出します。

[VOLUME]（ボリューム）コントロール
アンプのボリュームを調整します。

[TREBLE]（トレブル）、[MIDDLE]（ミドル）、[BASS]（ベース）コントロール
高音、中音、低音の音色を調整します。選択したアンプ・タイプによって、異なった音色変化になります。詳細は33ページを参照してください。

注意: アンプ・タイプによっては、この3つのコントロールをすべて左に回しきると、ほとんど音が出なくなるものもあります。

注意: オリジナルのアンプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールをすべて使用しないものもあります。たとえばTWEED 1x12のモデルとなったアンプのトーン・コントロールはTONEというツマミしかありませんでした。このため、3つのコントロールのうち1つだけを使用して音色を調整しその他の2つのコントロールは無効にする代わりに、本機の3つのコントロールをすべて効果的に使用してオリジナルの音色に幅をもたせるようにしました。このように自在なコントロールをしながら、オリジナル・サウンドの音色を完全に再現することができます。詳細はアンプ・モデルの説明（33ページの）を参照してください。

4. [POWER AMP]（パワーアンプ）コントロール

[PRESENSE]（プレゼンス）コントロール
プレゼンスの量を調整します。プリアンプの他のツマミと同様、[PRESENCE]コントロールもプログラマブルです。

注意: プレゼンスは負帰還回路を持つパワーアンプの機能で、この回路がないアンプもあります。たとえばモデルとなったVOXのAC15、AC15TB、AC30、AC30TBは、負帰還回路を持っていません。また負帰還回路を持っていてもプレゼンス・コントロールのないアンプもあります。たとえばオリジナルのBLACK 2x12には負帰還回路がありますが、プレゼンス・コントロールはありません。

プレゼンス・コントロールのないアンプ・モデルでは、このコントロールつまみを使って別の機能を調整します。たとえばBLACK 2x12ではブライト・スイッチとして、またVOXのオリジナル・アンプ各種ではカット・コントロールとして使います。プレゼンス・コントロールの詳細は33ページを参照してください。

[MASTER]（マスター）ボリューム
トータルの音量を調整するマスター・ボリュームです。

注意: [MASTER]ボリュームの設定はプログラムされません。

Valvetronixアンプのバーチャル・エフェクト・ループとは?
次のセクションにあるモジュレーション、ディレイ、リバーブは「バーチャル・エフェクト・ループ」で、プリアンプとパワーアンプの間に配置されています。これは、プロのギター用機材でも通常この3種類のエフェクトが同じような配置になっているからです。

ペダル・エフェクトのようにアンプの前に置かずに、エフェクト・ループとしてセットアップする理由は、そのほうがサウンドもリアルで良く聞こえるためです。たとえばリバーブ・エフェクトはコンサートホールや部屋で生じるサウンド効果をシミュレートしたものです。

このため、残響効果を生み出すには、信号経路の終わり近くで加えたほうがリアルで自然になるはずです。ディレイやモジュレーション・エフェクトも、やはり信号経路の最後に加えた方が自然です。また、クランチ・サウンドやハイ・ゲインのリード・サウンドを弾く場合、ROTARY、ROOMリバーブ、DELAYなどは信号にディストーションをかけてから加えた方が理にかなっています。

> **ペダルの活用法:** 別売のVC-4 VOXフット・コントローラを接続すると、モジュレーション、ディレイ、リバーブの各セクションをフット・コントローラでオン/オフできます。

5. モジュレーション・セクション

プリアンプとパワーアンプの間にある「バーチャル・エフェクト・ループ」に接続されるモジュレーション系のエフェクトを設定します。外部コントロールでモジュレーションのスピードの調整もできます。またノイズ・リダクションの調整はこのセクションで行います。

i) モジュレーション・エフェクト

[TYPE] (タイプ) スイッチ
モジュレーション系のエフェクト・タイプを選択します。選択したエフェクトの赤いLEDが点灯します。エフェクト・タイプを何も選択しないときはLEDがどれも消灯し、モジュレーション系のエフェクトはOFFになります。

> **ペダルの活用法:** 別売のVC-4 VOXフット・コントローラを接続すると、各モジュレーション系エフェクトのスピードが調整できます。

次の5種類のモジュレーション系エフェクトがあります。

CHORUS: 業界スタンダードの豊かなアナログ・コーラス・ユニットをモデリングしました。AD120VTではステレオになります。
FLANGER: 「両手タッピングのゴッドファーザー」と多くの人が崇める現代の有名ギタリストを生んだ、真にクラシックなアナログ・フランジャーをモデリングしました。
PHASER: バナナ色のボックスに入った人気の高いアナログ・フェイザーをモデリングしました。
TREMOLO: BLACK 2x12に搭載されている評判の高いトレモロ回路をモデリングしました。
ROTARY: ロータリー・スピーカーをモデリングしました。AD120VTではステレオになります。

注意:（トップ・パネルでも別売のVC-4 VOXフット・コントローラでも）ROTARYのスピードを調整すると、実際のロータリー・スピーカーのように一定時間後に設定したスピードに到達します。これは、スピーカーの回転を制御するモーターが速度を切り替えるのに数秒かかるのを再現しているからです。

[SPEED]（スピード）ツマミ
モジュレーションのスピードを調整します。

[DEPTH]（デプス）ツマミ
CHORUS、TREMOLO、ROTARYのモジュレーションの深さ、FLANGER、PHASERのフィードバック量を調整します。
以下の表を参照してください。

モジュレーション系エフェクト	SPEED	DEPTH
CHORUS	スピード	デプス
FLANGER	スピード	フィードバック
PHASER	スピード	フィードバック
TREMOLO	スピード	デプス
ROTARY	スピード	デプス

注意: プログラムにモジュレーション系のエフェクトをかけても効果が見られない場合は、[BYPASS]（バイパス）スイッチ（8）がオンになっていないか確認してください。バイパスされていると、スイッチの上にあるORIGINAL VALUE（オリジナル・バリュー）LEDが点灯し、「バーチャル・エフェクト・ループ」内のすべてのエフェクト（モジュレーション、ディレイ、リバーブ）がバイパスされていることを知らせます。バイパス状態を解除するには、[BYPASS]スイッチを押してLEDが消灯した状態にしてください。

ii) モジュレーション・スピードの外部コントロール

[EX CTL]（External Control）スイッチ
このスイッチをオンにすると、スイッチの上のLEDが点灯し、接続した別売VC-4 VOXフット・コントローラのペダルでモジュレーション・スピードをコントロールできます。

iii) プログラマブル・ノイズ・リダクション

[NR]（Noise Reduction）
[EX CTL]スイッチを押しながら[SPEED]ツマミを回すと、ノイズ・リダクションの調整ができます。ツマミを右に回すほどノイズ・リダクションの量が大きくなります。スイッチを途中で離してしまうと、エディット中のモジュレーション・スピードが変わってしまうので注意してください。

注意: RECTOやUS HIGAINなどのハイ・ゲイン設定を使用する場合はノイズ・リダクションをおすすめします。ハイ・ゲインはノイズにつながるからです。

6. ディレイ・セクション

「バーチャル・エフェクト・ループ」では 3 種類のディレイ系エフェクトから 1 つを選択します。どのディレイも最大ディレイ・タイムは 2 秒です。

[TYPE]（タイプ）スイッチ

ディレイ系のエフェクト・タイプを選択します。選択したエフェクトの赤いLEDが点灯します。エフェクト・タイプを何も選択しないときはLEDがどれも消灯し、ディレイ系のエフェクトはOFFになります。

次の 3 種類のエフェクトがあります。

DELAY: 原音とディレイ音の音質の差がほとんどない、高品質のデジタル・ディレイです。

TAPE ECHO: 最も評判の高いアナログ・テープ・エコーをモデリングしました。もともとエコーは再生ヘッドで作られ、ディレイ・タイムはモーターのスピードを変化させて設定します。プロ・ミュージシャンがこの「原始的な」テープ・エコーを好むのは、温かく暗いエコーを生むからです。

MULTI HEAD: 2ヘッドのテープ・エコーをモデリングしました。各ヘッドから生じるそれぞれのエコーにはフィードバック・ループがあり、複雑で温かい「マルチ・タップ」エコー効果が得られます。

[TAP]（タップ）スイッチ

任意のテンポ（速度）でこのスイッチを押すことによってディレイ・タイムを設定します。スイッチを 2 回押した間隔が、タイムとして設定されます。

> **ヒント:** 曲のテンポに合った正確なディレイ・タイムを設定するには、曲の拍子に合わせてスイッチを数回押してください。
>
> **ペダルの活用法:** 別売のVC-4 VOXフット・コントローラを接続すると、足でタップしながらディレイ・タイムが設定できます。

[FEEDBACK]（フィードバック）ツマミ

エコー音を繰り返す回数を設定します。ツマミを右に回すほど回数も増えます。

> **注意:** [FEEDBACK]ツマミを右に回しすぎると、収拾がつかなくなるので注意してください。

[DEPTH]（デプス）ツマミ

ディレイ・エフェクトの深さ（相対的なボリューム）を調整します。

> **注意:** プログラムにディレイ系のエフェクトをかけてもその効果が見られない場合は、[BYPASS]（バイパス）スイッチ（8）がオンになっていないか確認してください。バイパスされていると、スイッチの上にあるORIGINAL VALUE（オリジナル・バリュー）LEDが点灯し、「バーチャル・エフェクト・ループ」内のすべてのエフェクト（モジュレーション、ディレイ、リバーブ）がバイパスされていることを知らせます。バイパス状態を解除するには、[BYPASS]スイッチを押してLEDが消灯した状態にしてください。

7. リバーブ・セクション

3種類のリバーブ系エフェクトから選択して設定します。

[TYPE]（タイプ）スイッチ

リバーブ系のエフェクト・タイプを選択します。選択したエフェクトの赤いLEDが点灯します。エフェクト・タイプを何も選択しないときはLEDがどれも消灯し、リバーブ系のエフェクトはOFFになります。

次のエフェクト・タイプがあります。

SPRING: 最も人気のあるスプリング・リバーブをモデリングしました。
ROOM: 中程度の部屋、小さなホールの残響をモデリングしました。
PLATE: プロの録音スタジオでよく使われるプレート・リバーブを忠実に再現しました。

[DEPTH]（デプス）ツマミ

選択したリバーブの深さを調整します。

> **ヒント:** プログラムにリバーブ系のエフェクトをかけてもその効果が見られない場合は、[BYPASS]（バイパス）スイッチ（8）がオンになっていないか確認してください。バイパスされていると、スイッチの上にあるORIGINAL VALUE（オリジナル・バリュー）LEDが点灯し、「バーチャル・エフェクト・ループ」内のすべてのエフェクト（モジュレーション、ディレイ、リバーブ）がバイパスされていることを知らせます。バイパス状態を解除するには、[BYPASS]スイッチを押してLEDが消灯した状態にしてください。

8. バイパス＆オリジナル・バリュー・セクション

[BYPASS]（バイパス）スイッチ

このスイッチを押すと、「バーチャル・エフェクト・ループ」全体がバイパスされます。バイパスがオンになっているかを確認するには、スイッチの上にあるORIGINAL VALUE LEDが点灯しているかを見ます。モジュレーションやディレイ、リバーブ系のエフェクトを使ったプログラムを編集中、エフェクトのかからない「ドライ」音を聞きたい場合に、このボタンを押すだけでエフェクトがバイパスできます。

> **注意:** バイパスの状態はプログラムされません。

ORIGINAL VALUE（オリジナル・バリュー）LED

ツマミやスイッチの位置がチャンネルにプログラムされた値と一致すると、このLEDが一瞬点灯または一瞬消灯して知らせます。[BYPASS]スイッチがオフになっている場合は点灯します。[BYPASS]スイッチがオンになっているとLEDは点灯しているので、ツマミの位置がチャンネルにプログラムされた値と一致すると、LEDは一瞬消灯します。

9. バンク/マニュアル/ライト/チューナー/チャンネル・セクション

このセクションには様々なコントロール類が入っています。

バンク・ディスプレイ

バンク・ナンバー（1, 2, 3, 4, 1., 2., 3., 4.）の表示や、チューナー使用時は音名を表示します。（チューニングの詳細は23ページを参照してください。）

[▲]/[▼]キー

8つのプログラム・バンクから選択します。

MANUAL（マニュアル）モード

[▲]と[▼]キーを2つ同時に押すとマニュアル・モードに入ります。詳細は22ページを参照してください。

[WRITE]（ライト）キー

新しいプログラムを保存するときに押します。新しいプログラムを保存するには2つの手順があります。詳細は19ページを参照してください。

[TUNER/CANCEL]（チューナー/キャンセル）キー

このキーには次の2つの機能があります。

1. 内蔵のクロマチック・チューナーをONまたはOFFにします（23ページ参照）。

   ヒント: このキーを1秒以上押しつづけると、アンプ出力がミュートされるので、ライブ中に音を出さずにチューニングするときなどに便利です。

2. 設定の保存時に操作を中止したり、上記のミュートを解除するときなどにも使用します。

CHANNEL SELECT [1]〜[4]キー

このキーを押してチャンネルを選択します。バンク・ディスプレイの数字が点滅している場合は、バンク切り替え中です。このキーで点滅しているバンクのチャンネルを選択します。

チューナー使用時（25ページ参照）は、CHANNEL SELECTキーのLEDを使用してチューニングを行います。

10. [POWER]（パワー）スイッチ

電源スイッチです。ON時にはスイッチの上のランプが点灯します。

B. リア・パネル

1. AC電源端子

付属の電源コードを接続します。

2. EXTERNAL SPEAKER OUT（スピーカー出力）端子

外部スピーカーを接続します。AD60VTは端子が1つ、ステレオのAD120VTは端子が2つあります。

注意: 外部スピーカーを接続しても、内蔵スピーカーは接続されたままになっていますので、最適な性能を得るために、以下の注意を守ってください。

- AD60VTには1x12のキャビネットを、またAD120VTには2x12のキャビネットを併用すると最適です。
- 必ず 8 オーム以下（4 オームなど）のスピーカーを接続してください。AD120VTでステレオ・キャビネットを使用するときは、それぞれのインピーダンスが 8 オーム以下であることを確認してください。
- 60W未満のスピーカーや、POWER SELECTコントロール（5）で選んだワット数以下のスピーカーは、接続しないでください。これを守らないとスピーカーが損傷することがあります。
- ギターなどのシールド・ケーブルをスピーカー接続には絶対に使用しないでください。必ずスピーカー（アンシールド）・ケーブルを接続してください。

3. POWER SELECT（パワー・セレクト）コントロール

パワー・アンプの出力ワット数を 4 種類から選択します。

AD60VT: 60W、30W、15W、1W
AD120VT: 60W+60W（左右各60W）、30W+30W、15W+15W、1W+1W

Valvetronixアンプのパワー段のドライブを上げたときのファットで温かなサウンド（これはチューブ・アンプの傑作品に共通する音響特性）をそのまま損なうことなく、音量を様々なレベルで出力することができます。小さな部屋で演奏する場合でも、聞き手の鼓膜を傷めず、また大切な音色を損ねることなく演奏できます。AC15（15W）やTWEED 1x12（18W）などのように出力の小さいアンプでは、ここで15Wのような小さい出力を選ぶことによって、さらにリアルなオリジナル・サウンドを再現します。

4. LOOP（ループ）

外部エフェクターへのループ端子です。AD60VTはモノです。AD12VTはステレオ・ループで左右のSEND（L/R）とRETURN（L/R）があります。

SEND（センド）端子
外部エフェクターの入力へ接続します。

RETURN（リターン）端子
外部エフェクターの出力へ接続します。

> **注意:** モノ入力が１つしかないエフェクターをＡＤ１２０ＶＴエフェクターのLOOPで使用する場合は、必ずアンプのLOOP SEND L（左）に接続してください。

5. LEVEL（レベル）コントロール
PHONE OUT端子（6）とLINE OUT端子（7）からの出力レベルを調整します。

6. PHONE OUT（ホーン・アウト）端子
ヘッドホンを接続します。ＡＤ６０ＶＴはモノ出力、ＡＤ１２０ＶＴはステレオ出力です。

> **注意:** この端子に接続すると内蔵スピーカーから音は出ません。

7. LINE OUT（ライン・アウト）端子
レコーディング・ミキサー等へ本機のキャビネット・シミュレーション信号を送る出力端子です。ＡＤ６０ＶＴはモノの単一端子、ＡＤ１２０ＶＴはステレオなので左右（L/R）一対の端子です。

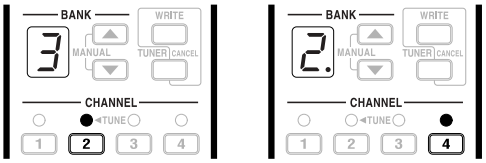
8. FOOT CONTROLLER（フット・コントローラ）端子
別売のＶＣ-4 VOXフット・コントローラを接続します。

> **注意:** この端子には、ＶＣ-4 VOXフット・コントローラ以外は、絶対に接続しないでください。

プログラムの選択、作成、保存（プログラム・セレクト・モードとマニュアル・モード）

本機は32種類のプリセット・プログラムを内蔵しています。これらは、それぞれ4つのチャンネルを持つ8つのバンクに保存されています。バンク・ディスプレイにはバンクの番号が、1、2、3、4、1.（1の後に小さな点が付きます）、2.、3.、4.などと表示されます。4つのチャンネルにはそれぞれ該当するCHANNEL SELECT [1]、[2]、[3]、[4]キーがあり、チャンネルを選択するとLEDが点灯します。

注意: 本書でプログラム・ナンバーを記載するときは、最初にバンク・ナンバー、次にチャンネル・ナンバーを記載します。たとえば3-2はバンク3のチャンネル2に保存されているプログラム、2.-4はバンク2.のチャンネル4に保存されているプログラムを指します。



本機には32種類のプリセット・プログラムがすでに入っていますが、どれもカスタム化することができます。またカスタム調整した後で、元のプリセットを呼び出すことも簡単にできます。これはクイックスタート編（3ページ参照）でご紹介しました。

ここではプログラムの呼び出し、プログラムの切り替え、プログラムのカスタム化について説明します。

プログラム・セレクト・モード

内蔵チューナー（23ページ参照）を使用していないとき、マニュアル・モード（22ページ参照）ではないとき、プログラム呼び出し中または書き込み中（18ページ参照）ではないときは、「プログラム・セレクト・モード」です。

現在のモードはバンク・ディスプレイで確認できます。
バンク・ディスプレイに [o] と表示されているときは**マニュアル・モード**です。
[-] と表示されているときは**チューナー・モード**、[_] と表示されているときは**サイレント・チューナー・モード**、[A] ～ [G] のように音名が表示されているときは**チューナー・モード**または**サイレント・チューナー・モード**です。
バンク・ディスプレイの表示が点滅しているときは、プログラムの呼び出し中または書き込み中です。
従って、バンク・ディスプレイがこれ以外の状態のときは**プログラム・セレクト・モード**です。

ここではまず、プログラム・セレクト・モードではない状態を想定しましょう。

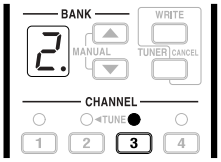
プログラム・セレクト・モードへの入り方

以下の手順でプログラム・セレクト・モードに入ります。プログラム・セレクト・モードに入るとバンク・ナンバー（1～4または1.～4.）が点灯します。

- バンク・ディスプレイに [o]（マニュアル・モード）と表示されている場合は、次の2つの方法があります。
  a) 任意のCHANNEL SELECTキーを押します。
  b) [▲]/[▼]キーを同時に押します。
- バンク・ディスプレイに [-]、[_] または [A] ～ [G] （チューナー・モードまたはサイレント・チューナー・モード）と表示されている場合は[TUNER/CANCEL] キーを押します。
  チューナー・モードまたはサイレント・チューナー・モードに入る前のモードに戻ります。マニュアル・モードに戻ったときは、任意のCHANNEL SELECTキー、または [▲]/[▼] キーを同時に押します。
- バンク・ディスプレイの表示が点滅している場合は[TUNER/CANCEL] キーを押します。

プログラムの呼び出し

例としてプログラム2.-3（バンク2.のチャンネル3）を呼び出しましょう。



1. プログラム・セレクト・モードであることを確認します。
   バンク・ディスプレイにはバンク・ナンバーが点灯しているはずです。

2. バンク・ディスプレイの右にある[▲]/[▼]キーを押してバンク2.を選択します。
   [2] が点滅します。

3. CHANNEL SELECTの[3]キーを押します。
   プログラム2.-3がすぐに呼び出されます。

ペダルの活用法: 別売のVC-4 VOXフット・コントローラを接続すると、ペダルでプログラムを呼び出せます。

プログラムの切り替え

前述のプログラムの呼び出し手順を繰り返してプログラムを切り替えてください

ヒント: バンクを選択しただけでチャンネルを選択していないときは、すでに選択されていたプログラムがまだ有効になっています。このため、ライブなどでプログラムを切り替えるときは、バンクを早めに選択しておいてからタイミングよくチャンネルを選択すると、スムーズなプログラムの切り替えができます。

ペダルの活用法: 別売のVC-4 VOXフット・コントローラを接続すると、ペダルを踏んでプログラムを切り替えることができます。

カスタム・プログラムの作成と保存

カスタム・プログラムの作成には二つの方法があります。一つは、既存のプログラムを好みに調整する方法。もう一つはまったくゼロから作成する方法です。
まずプリセットを変更して作成する方法を説明しましょう。

既存のプログラムを調整して作成

プリセット・プログラム“ 1-3: Breakin' Stuff ”のモダンなクランチ・リズム・サウンドを基にもっとラウドでゲインをアップさせ、中域を強調したコンテンポラリーなリード・サウンドを作りたいとしましょう。コーラスとテープ・エコーも加えます。

1. プログラム 1-3 を呼び出します。

2. アンプ・セクションの[GAIN]、[VOLUME]、[MIDDLE]ツマミで適宜調整します。

3. モジュレーション・セクションの[TYPE]セレクト・キーでCHORUSを選択し、[SPEED]と[DEPTH]を適宜設定します。

4. ディレイ・セクションの[TYPE]セレクト・キーでTAPE ECHOを選択します。
[TAP]キーを押してディレイ・タイムを設定し、[FEEDBACK]と[DEPTH]を適宜設定します。

5. [WRITE]キーを1回押します。
バンク・ディスプレイの表示が点滅して、作成したプログラムを保存する先を選ぶ手順へ入ります。

   注意: ここで新しいプログラムを保存したくなければ、[TUNER/CANCEL]キーを押して操作をキャンセルしてください。

6. [▲]/[▼]キーで保存先のバンクを選択し、任意のCHANNEL SELECTキーでチャンネルを選択します。

7. [WRITE]キーをもう一度押します。
これで新しいプログラムが保存されました。

ゼロから作成

1. 任意のプログラムを選択します（18 ページ参照）。
ゼロから作成するので、どのプログラムでもかまいません。

2. [PEDAL]セレクターをオフにします。
ペダル・エフェクトを使用したい場合は、最後に追加します。

3. [BYPASS]スイッチを押して、モジュレーション、ディレイ、リバーブをバイパスさせます。
ORIGINAL VALUE LED が点灯します。モジュレーション等のエフェクトは後で加えます。

4. [AMP TYPE]セレクターで、使用したいアンプを選択します。

5. [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE]コントロールをそれぞれ適宜設定します。

6. モジュレーション、ディレイ、リバーブ等を加えるには、[BYPASS] スイッチをもう一度押します（ORIGINAL VALUE LED が消灯）。任意のエフェクトを選択し調整します。

   注意: モジュレーション、ディレイ、リバーブを個々にオフにするときは、各エフェクト・タイプのLEDが消灯するまで、それぞれの[TYPE]スイッチを押してください。

7. ペダル・エフェクトを使用したい場合は、[PEDAL] セレクターでエフェクトを選択し、[DRIVE]、[LEVEL]ツマミで調整します。

   ヒント: ペダル・エフェクトは、モジュレーションやディレイ、リバーブの入っていないサウンドのほうが調整しやすいので、[BYPASS] スイッチを押してバイパスさせます（ORIGINAL VALUE LED が点灯）。調整が済んだら、[BYPASS] スイッチをもう一度押してLEDを消灯させてください。

8. 気に入ったサウンドに仕上がったら、[WRITE] キーを1回押します。
   バンク・ディスプレイの表示が点滅して、作成したプログラムを保存する先を選ぶ手順へ入ります。

   注意: ここで新しいプログラムを保存したくなければ、[TUNER/CANCEL] キーを押して操作をキャンセルしてください。

9. [▲]/[▼]キーで保存先のバンクを選択し、任意のCHANNEL SELECTキーでチャンネルを選択します。

10. [WRITE] キーをもう一度押します。
    これで新しいプログラムが保存されました。

ORIGINAL VALUE（オリジナル・バリュー）LED

気に入ったプログラムを見つけ、それがどんな設定になっているか知りたい場合は、このORIGINAL VALUE（オリジナル・バリュー）LEDを活用します。このインジケータによって、各ペダル・エフェクトとアンプ・モデルの[MASTER] ボリューム設定を除くトップ・パネル上のすべてのツマミの設定がわかります。

モジュレーション、ディレイ、リバーブについては、各プログラムを呼び出したときにそれぞれのセクションにあるLED の点灯状況で内容がわかります。たとえばプログラム“ 2-1: Clean Edge ”はCHORUS、MULTI、PLATEを使っているので、該当するLEDが点灯します。

モジュレーション、ディレイ、リバーブの各ツマミ設定を確認する前に、ORIGINAL VALUE LED の働きをもう少し説明しましょう。

すでに述べたように、このLEDは[BYPASS] スイッチのインジケータとしても機能します。[BYPASS] スイッチを押してモジュレーション、ディレイ、リバーブ・セクションをバイパスすると、ORIGINAL VALUE LED が点灯します。もう一度[BYPASS] スイッチを押してバイパスを解除すると、LEDは消灯します。このLEDが消灯中にオリジナルの設定値が見つかると、LED が 1 秒間点灯します。あるいは、LED が点灯中にオリジナルの設定値が見つかると、1 秒間消灯します。

オリジナルの設定値の見つけ方

トップ・パネルの左端から順に説明しましょう。まず**ペダル・セクション**です。

1. ペダル・セクションの左上にあるLEDが点灯していれば、ペダル・エフェクトを使用している、ということがわかります。
   点灯していなければ、手順5へ進んでください。

2. ペダル・セクションのLEDが点灯しているので、該当モデルはペダル・エフェクトを使用しています。常にORIGINAL VALUE LED を観察しながら、10種類のペダル・エフェクトを順に選んでいきます。
   使用しているエフェクトに当たると、ORIGINAL VALUE LED が1秒間点灯または消灯します。点灯または消灯は、バイパスになっているかどうで決まります（バイパス時は消灯）。

   これで使用ペダル・エフェクトがわかりました。次にエフェクトの[DRIVE]ツマミの設定を見つけます。

3. ORIGINAL VALUE LED を観察しながら[DRIVE]ツマミを回していきます。
   オリジナルの設定値のところでORIGINAL VALUE LED が点灯または消灯します。

4. 同様にしてペダル・セクションの[LEVEL]ツマミのオリジナル設定を見つけます。

   次に**アンプ・セクション**に入ります。

5. ORIGINAL VALUE LED を観察しながら[AMP TYPE]セレクターを回して、16種類のアンプ・モデルのどれを使っているかを見つけます。
   使用モデルに当たると、ORIGINAL VALUE LED が1秒間点灯または消灯します。

   次に、[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE]の各コントロールのオリジナル設定を順に見つけていきます。

6. [GAIN]ツマミから始めましょう。ツマミを回しながらORIGINAL VALUE LED を観察します。
   オリジナル設定値に達すると、LEDが点灯または消灯します。

7. 同様にして[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE]の各コントロールのオリジナル設定を見つけます。

   最後は**バーチャル・エフェクト・ループのセクション**です。EX CTL LEDは無視して、まずモジュレーション・エフェクトから始めます。

8. エフェクトの横にあるLEDが点灯している場合は、そのエフェクトがオリジナル設定で使用されています。その場合は[SPEED]ツマミと[DEPTH]ツマミの設定を見つける必要があります。
   上記と同様の手順でツマミを回して、オリジナル設定を見つけてください。

9. ディレイとリバーブについても手順8に従ってください。

   以上で、選択したプログラムがどのように設定されているのかがわかったはずです。

マニュアル・モード

本機がマニュアル・モードに入ると、選択しているプログラムに関係なく、通常のギターアンプと同じ動作になります。つまり、[PEDAL] や[AMP TYPE] セレクターなどを含む、トップ・パネル上のすべてのノブやコントロールの設定で、出力されるサウンドの音色が決まります。

マニュアル・モードで保存される設定は次の 4 つです。

- 使用しているモジュレーション、ディレイ、リバーブのタイプの変更内容。
  たとえばマニュアル・モードでCHORUS、TAPE ECHO、SPRINGを選択すると、次回マニュアル・モードに入ったときに、その選択内容がそのまま呼び出されます。
  注意: マニュアル・モードでは、モジュレーション、ディレイ、リバーブのノブ設定は保存されませんのでご注意ください。
- [TAP] スイッチを押して設定したディレイ・タイムの設定
- モジュレーション・セクションでの[EX CTL] スイッチ設定
- ノイズ・リダクション（NR）の設定

マニュアル・モードへの切り替え

プログラム・セレクト・モードまたはチューナー・モードからマニュアル・モードに切り替えるには、バンク・セクションにある[▲]/[▼]キーを同時に押します。
バンク・ディスプレイには ⊡ と表示され、マニュアル・モードに入ったことを知らせます。

マニュアル・モード設定の保存

マニュアル・モードで作成した音色を保存するには、カスタム・プログラムの保存と同じ要領で行います。
[WRITE] キーを押し、[▲]/[▼]キーでバンクを選択し、CHANNEL SELECT キーでチャンネルを選択してから、もう一度[WRITE] キーを押します。
これでプログラムが保存され、プログラム・セレクト・モードに戻ります。

マニュアル・モードの終了

マニュアル・モードから出るには、以下の 2 つの方法があります。

- [▲]キーまたは[▼]キーを押すと、最後に使用したプログラムに自動的に戻ります。
- 任意のCHANNEL SELECT キーを押すと、マニュアル・モードが終了し、最後に使用したバンクと押したCHANNEL SELECT キーのチャンネル・ナンバーが自動的に選択されます。

チューナー・モード

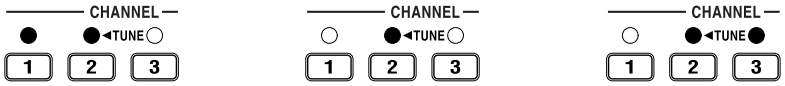
アンプ内蔵チューナーでギターをチューニング

本機にはオート・クロマチック・チューナーが内蔵されており、438Hz～445Hzの範囲でキャリブレーションもできます。チューナーを使用するには[TUNER/CANCEL] キーを押します。バンク・ディスプレイには - と表示されます。

音を弾くと、一番近い音名がバンク・ディスプレイに表示されます。音符がシャープ（例: C#）の場合、バンク・ディスプレイの右下には . が表示されます。
たとえば F. はF#のことです。チューナーはクロマチックなので12音すべてを認識でき、次のように表示します。

音名	バンク・ディスプレイ	音名	バンク・ディスプレイ
C	C	F#	F.
C#	C.	G	G
D	d	G#	G.
D#	d.	A	A
E	E	A#	A.
F	F	B	b

CHANNEL SELECT [1] ～[3]キーの上にあるLED表示で、弾いた音がバンク・ディスプレイに表示されている音名とどれだけ近いかがわかります。つまり、LEDがチューナーの針の役目をするわけです。
弾いた音と表示された音名が完全に一致している場合は、CHANNEL SELECT [2] キーのLEDだけが点灯します。弾いた音が若干低いとCHANNEL SELECT [1] キーのLEDが点灯、若干高いとCHANNEL SELECT [3] キーのLEDが点灯します。
そこで、CHANNEL SELECT [2] キーの上のLEDだけが点灯するように、ギターを微調整します。



音が低い　　正しいチューニング　　音が高い

チューナー・モードの終了

チューニングが終わったら、[TUNER/CANCEL] キーをもう一度押します。
チューナー・モードに入る前のモードに戻ります。

サイレント・チューニング・モード

ライブ中などに音を出さずにチューニングしたい場合は、[TUNER/CANCEL] キーを1秒以上押すと、アンプの出力がミュートされます。
バンク・ディスプレイには [-] と表示されます。

サイレント・チューナー・モードの終了

チューニングが終わったら、[TUNER/CANCEL] キーをもう一度押します。
サイレント・チューナー・モードに入る前のモードに戻ります。

チューナーのキャリブレーション調整

本機の電源を入れると、内蔵チューナーは基準ピッチAの周波数が440Hz（コンサート・ピッチ）に自動調整されますが、必要に応じて438Hz～445Hzの範囲で調整できます。

チューナーの作動中に、[TUNER/CANCEL] キーを押しながら[▲]/[▼]キーを押して数値を変更します。
バンク・ディスプレイには次のように、基準ピッチの周波数の下1桁が表示されます。

バンク・ディスプレイ	キャリブレーション
8	**438Hz**
9	**439Hz**
0	**440Hz**
1	**441Hz**
2	**442Hz**
3	**443Hz**
4	**444Hz**
5	**445Hz**

希望する周波数が表示されたら[TUNER/CANCEL] キーから指を離します。

注意: 変更したキャリブレーションは、電源をオフにすると無効となり、再び電源をオンにすると自動的に440Hzになります。

プリセット・プログラム・メニュー

美味しい音色満載のビュッフェへようこそ!
シェフがご用意したいろいろな音色メニューをご紹介します。1音色だけでも十分堪能できますが、まずは32種類すべてを味見してみてください。Valvetronix アンプの他に必要なものは、ギターとコードと耳、手、そして音楽センスだけです。

> **ヒント:** これらの32のプリセット・プログラムを作り上げるとき、私たちは多くのギターや、強力なハムバッカーから繊細なシングル・コイルまで多種多様なピックアップを用いました。プレーヤーが良いと感じる音は人それぞれなので、プログラムを微調整したいときは、自由に行ってください。頼りになるのはあなたの耳です!

工場プリセット・プログラムの内容

バンク1

1-1 Flying High
80年代初期ロサンゼルスのハード・ロック・リード・サウンドの雄叫び
1-2 Def Tone
コンセプト・アルバムの心にグッと迫るバラードに最適なクリーン・サウンド
1-3 Brakin' Stuff
ワイルドでモダンなクランチ
1-4 Tie Mama Down
女王然としたクラシックなAC30のクランチ・サウンド

バンク2

2-1 Clean Edge
アイルランドのトップ有名バンドによる、AC30のクリーン・サウンド
2-2 Crunchy Trem
飾りにトレモロを添えたブルース風のAC15クランチ
2-3 Paperback Author
リバプール出身のペーパーバック・ライターでなくても堪能できるサウンド
2-4 Keep Alive
AC30のクランチとフランジで本格派ロック!

バンク3

3-1 Puppet Master
中域を抑えた攻撃的なサウンド
3-2 Angus Beef
SGを弾くとピッタリ。オーストラリアのベテラン・ハードロック・バンドをイメージしています。
3-3 Viable
オート・ワウのスパイスをきかせた粋なサウンド
3-4 British Steel
80年代初期のクラシックなメタル・サウンド

バンク4

4-1 Finger Pickin' Good
スラップバックを入れた典型的なカントリー・サウンド

4-2 Sand Castles
Uバイブを使用したサウンドで、ストラト・キャスターを逆さまにして弾けば益々ピッタリ

4-3 Crossfire Crunch
テキサス風リズム&ブルース

4-4 Clean Trem
トレモロをほんのり加えたクリーンな音色

バンク1.

1.-1 Dirt
「アリス・・・」とかいう鎖を身体中に巻いたヤツらに敬意を表して、、、。

1.-2 Mr. Clean
これ以上クリーンでコーラスのかかったサウンドはありません。

1.-3 Unchain
フランジをたっぷりかけたバスバスッというサウンド

1.-4 Sweet Child
ネック・ハムバッカーを使用するとピッタリのサウンド

バンク2.

2.-1 Alabama's Home
コンプレッサーをかけたクリーン・サウンド

2.-2 Large Led Ballon
ハードロック・リフに欠かせない音色

2.-3 Vulgar
冷徹の一言に尽きるリズム・クランチ

2.-4 Dirty Ol'Man
濁ったサウンドも音量を落とすとクリーンに

バンク3.

3.-1 Tasty Flange
コンプレッサーとフランジをかけたクリーン・サウンド

3.-2 Cream Badge
お馴染みのロータリー・スピーカー・サウンド

3.-3 Nativity in Black
元祖メタルのリズム・サウンド

3.-4 Super Natural
スパイスのきいたラテン系サウンド。オーバードライブをフルアップ

バンク4.

4.-1 Funked Up

クリーンであかぬけたサウンド

4.-2 Mista Scary

80年代後半、90年代初期のファットで流れるようなハイ・ゲインのリード・サウンド

4.-3 Jimi's Fuzz Chile

ギターの天才のファズを多用したサウンド

4.-4 Unplugged

エレキ・ギターを弾いても、ギターの中が空洞なの?と思わせる見事なアコースティックなサウンド

プリセット・プログラムの設定

プログラム	ペダル	アンプ・タイプ	モジュレーション	ディレイ	リバーブ
1 - 1 Flying High		UK MODERN	CHORUS	TAPE	ROOM
1 - 2 Def Tone	COMP	BLACK 2x12	FLANGER	TAPE	ROOM
1 - 3 Breakin' Stuff		RECTO			SPRING
1 - 4 Tie Mama Down	TREBLE B.	AC30	CHORUS		
2 - 1 Clean Edge	COMP	AC30	CHORUS	MULTI	PLATE
2 - 2 Crunchy Trem	TREBLE B.	AC15	TREMOLO		SPRING
2 - 3 Paperback Author		AC30TB		TAPE	
2 - 4 Keep Alive	TREBLE B.	AC30	FLANGER		ROOM
3 - 1 Puppet Master		UK MODERN			
3 - 2 Angus Beef		UK BLUES			ROOM
3 - 3 Viable	AUTOWAH	UK '90S		TAPE	SPRING
3 - 4 British Steel		UK '80S			ROOM
4 - 1 Finger Pickin' Good	COMP	TWEED 1x12		DELAY	PLATE
4 - 2 Sand Castles	U-VIBE	BLACK 2x12			SPRING
4 - 3 Crossfire Crunch	TUBE OD	TWEED 4x10		TAPE	SPRING
4 - 4 Clean Trem		BLACK 2x12	TREMOLO		SPRING
1. - 1 Dirt		RECTO			
1. - 2 Mr. Clean		BOUTIQ CL	CHORUS		SPRING
1. - 3 Unchain		US HIGAIN	FLANGER	TAPE	ROOM
1. - 4 Sweet Child	TUBE OD	BOUTIQ OD		TAPE	ROOM
2. - 1 Alabama's Home	COMP	TWEED 1x12	PHASER		SPRING
2. - 2 Large Led Balloon		UK '70S			ROOM
2. - 3 Vulgar	TREBLE B.	US HIGAIN	CHORUS		
2. - 4 Dirty Ol' Man		BOUTIQ OD	CHORUS		PLATE
3. - 1 Tasty Flange	COMP	TWEED 4x10	FLANGER		PLATE
3. - 2 Creamy Badge		UK '70S	ROTARY		SPRING
3. - 3 Nativity in Black	TREBLE B.	US HIGAIN			
3. - 4 Super Natural	TUBE OD.	RECTO	CHORUS		ROOM
4. - 1 Funked Up!	COMP	BLACK 2x12	PHASER	TAPE	PLATE
4. - 2 Mista Scary		US HIGAIN		MULTI	ROOM
4. - 3 Jimi's Fuzz Chile	FUZZ	UK '70S	PHASER		PLATE
4. - 4 Unplugged	ACOUSTIC	BLACK 2x12			ROOM

工場出荷時のプリセット・プログラムの呼び出し

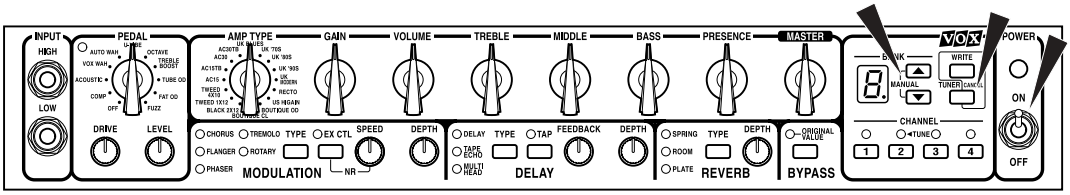
クイック・スタート編（3ページ）でも説明しましたが、下記の手順で工場出荷時のプリセット・プログラムを呼び出すことができます。

> **注意:** 工場出荷時のプリセット・プログラムを呼び出すと、それまでカスタム化して保存してあったプログラムはすべて消去されます。一旦呼び出すと、今までの変更内容は取り戻せませんので、十分慎重に行ってください。
>
> **ヒント:** どうしても保存しておきたいカスタム設定がある場合は、裏表紙の折り込みにある「プログラム・シート」に設定内容を書き留めておいてください。
>
> **注意:** マニュアル・モードで行ったモジュレーション、ディレイ、リバーブのタイプ変更もすべて消去されますので、ご注意ください。

以下の手順でプログラムを工場出荷時の設定に戻します。

1. アンプの電源をオフにします。

2. [▲]/[▼]キー、[TUNER/CANCEL] の3つのキーを押しながら、電源をONにします。バンク・ディスプレイに P が点滅する場合は手順4へ進んでください。点滅しない場合は手順3へ進んでください。



3. アンプの電源をもう一度オフにして、手順2を繰り返します。
3つのキーから指を離さないように注意してください。今度は P が点滅しているはずです。

4. [WRITE] キーを押します。
バンク・ディスプレイとCHANNEL SELECTキーのLEDで、リセット中のプログラム番号が表示されます。リセットが終わると表示が止まり、自動的にチャンネル・セレクト・モードに入り、プログラム“ 1-1: Flying High ”が選択されます。

> **注意:** 処理中は、絶対に電源をオフにしないでください。

プリセット・モデルの説明

本章ではValvetronixアンプに内蔵の16種類のアンプ・モデルと10種類のペダル・エフェクトについて説明します。まずペダル・エフェクトから説明しましょう。

注意: [DRIVE]ツマミや[LEVEL]ツマミが実際に「ドライブ」や「レベル」を調整しない場合の機能については、「ツマミの機能」を参照してください。

A. ペダル・エフェクト

1. COMP (コンプレッサー)

粒のそろったスムーズでクリーンなフレーズを弾きたいとき、リードギターにほんのわずかなサスティーンをかけたいときはCOMPが最適です。パーカッシブなクリーンサウンドで人気の高いコンプレッサー・ペダルをモデリングしました。80年代、90年代のポップやファンクのリズムにピッタリです。また、歌うようなメローなサスティーンも得られます。

ツマミの機能

[DRIVE]ツマミ: コンプレッサーのセンシティビティ(感度)、つまり効果が現われるタイミングを調整します。ツマミを右に回すほど、コンプレッション、サスティーンの量が増加します。

2. ACOUSTIC (アコースティック・シミュレーター)

ギターとアンプのスイッチを入れないアコースティックなサウンドを弾きたい場合に最適です。エレキ・ギター音をアコースティック・ギターの音に変換するシミュレーターです。特にBLACK 2x12アンプ・モデルと組み合わせた場合など、シングル・コイル(つまり低出力)のネック(フロント)・ピックアップでの使用をお奨めします。

ツマミの機能

[DRIVE]ツマミ: 高域を調整します。
[LEVEL]ツマミ: 低域を調整します。

注意: 高出力ピックアップのギターを[HIGH]端子に接続してこのACOUSTICを選択すると、ギターの音量を抑えても不快な高域のディストーションがかかってしまいます。[DRIVE]ツマミを上げた状態では特に目立ちます。これは故障ではなく、ペダル・エフェクトをかけすぎているという証拠です。その他のアコースティック・シミュレーション・ペダルやアコースティック・エミュレーション・チャンネルでも同様の問題が生じます。エレキ・ギターでアコースティック・ギターのサウンドを出すには、高域をかなりブーストする必要があるので、ドライブをかけすぎると、このような高域ディストーションが生じてしまうわけです。

3. VOX WAH (VOXワウ)

伝説のVOXワウ・ペダル、V847をモデリングしました。喉からしぼり出すような独特のトーンにより、多くのプロ・ミュージシャンの人気の的となった唯一のペダルです。うまく使い分ければ、すすり泣くギター音から、何かに取り憑かれた男の遠吠えまで自在なサウンドが楽しめます。

ツマミの機能

[DRIVE]ツマミ: V847ペダルのスイープ（オープン -> クローズ）と同じ働きをします。
[LEVEL]ツマミ: このツマミの機能は無効になります。

> **ヒント:** 多くのギタリストがよく使うワザは、ワウ・ペダルの範囲内で「ツボ」を見つけて、いつもその位置にしておくことです。これは「スタック・ワウ」（引っかかったワウ）とも呼ばれたりしますが、その特有のサウンドはどんなミックス状態でも音抜けがいいので、とても効果的です。[DRIVE]ツマミでこの「スタック・ワウ」のツボを見つけることもできます。
>
> **ペダルの活用法:** 別売のVC-4フット・コントローラを接続すると、VOX WAHのペダル・ワウとして使用できます。

4. AUTO WAH (オート・ワウ)

ピッキングのダイナミクス、つまり弦を弾く強さに追従して自動的に効果のかかるオート・ワウのモデリングです。クセがあるけれど便利なエフェクトです。

ツマミの機能

[DRIVE]ツマミ: 反応の早さを調整します。
[LEVEL]ツマミ: センシティビティ（動作感度）を調整します。

5. U-VIBE (U-バイブ)

かの有名なフェイズ/ビブラート、Univox Uni-Vibeをモデリングしました。このエフェクトは回転スピーカーをシミュレートし、とても誘惑的で情感のあるトーンを作り出します。このペダルを作り出した人は、実はValvetronixアンプのパワーアンプに採用したValve Reactor技術を生み出した人でもあるのです。

ツマミの機能

[DRIVE]ツマミ: ビブラートの速さを調整します。
[LEVEL]ツマミ: ビブラートの深さを調整します。

> **ペダルの活用法:** 別売のVC-4フット・コントローラを接続してビブラートの速度をコントロールすることができます。

6. OCTAVE (オクターブ)

1オクターブ低い音を作り出し、原音に混ぜ合わせることによって音に重厚感を与えるペダルのモデリングです。

ツマミの機能

[DRIVE]ツマミ: 原音のミックス量を調整します。
[LEVEL]ツマミ: オクターブ音のミックス量を調整します。

> **注意:** この種のタイプのペダル・エフェクトはあくまで単音に対してのみ効果があります。コードを弾いてしまうと収拾がつかなくなってしまいます。

7. TREBLE BOOST (トレブル・ブースト)

VOX AC30を使うことを想定してデザインされたトレブル・ブースターをモデリングしました。オーバードライブ・サウンドに「クランチ感」を加えます。プリセット・プログラム“ 1-3: Tie Mama Down ”(クラシック・ロック)や“ 3.-3: Nativity in Black ”(オールド・スクール・メタル)、“ 2.-3: Vulgar ”(モダン、ハイ・ゲイン、残虐的)を試してみてください。

8. TUBE OD (チューブOD)

ケバケバしい、趣味の悪い緑色のボックスに入ったオーバードライブ・ペダルをモデリングしたもので、その作り出すサウンドの温かみが何とも言えず素晴しいため、伝統のクラシックなエフェクトとなっています。

9. FAT OD (ファットOD)

この世で最も嫌われているネズミを名称に持つペダルをモデリングしました。倍音豊かでスムーズなディストーションが得られます。

10. FUZZ (ファズ)

レトロっぽく、あつかましくて荒削り。そんなイメージを作ります。

B. アンプ・モデル

ここでは、素晴しいサウンドを誇る数々のアンプの中からValvetronixアンプのために特別に選んだ16種類のアンプ・モデルについて説明します。モデルとなるアンプを選択するには、かなりの時間を費やし、スタッフ同士の意見交換、プロ・ミュージシャンやギター専門家のアドバイス、数限りない試聴、試演を繰り返しました。こうして選んだアンプはベストの中のベストであるだけでなく、まったく素朴でクリーンなサウンドから、とてつもなくオーバードライブのかかったサウンドまで、幅広い範囲の音色を網羅しています。

コントロール類

本機のトップ・パネルには[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE]、[MASTER]の各コントロールがありますが、モデルとなったアンプには必ずしもこれらのコントロール類がすべて搭載されているわけではありません。そこで、元のアンプにないツマミをそのまま遊ばせておくのももったいないので、アンプ・モデルの再現性を損なわずに、この6つのコントロールに機能を割り当てました。つまり、オリジナルのアンプの音色を正確に再現するだけでなく、更に自在なサウンドのコントロールができるわけです。

たとえばオリジナルのアンプにゲイン・コントロールがない場合(AC15、AC15TB、AC30、AC30TB、UK BLUES、UK '70s、BLACK 2x12、TWEED 1x12、TWEED 4x10)、Valvetronixアンプの[GAIN]コントロールではオリジナルのボリューム・コントロールの役目を果たします。ということは3つのボリューム・コントロール([VOLUME]、[GAIN]、[MASTER])が使えるわけです。[MASTER]ボリュームはアンプ全体の音量のみを設定しますが、[VOLUME]コントロール([GAIN]コントロールの横)は、もう一つの「マスター・ボリューム」として、各プログラム間の音量バランスが調整できます。

オリジナルのアンプに3バンドEQが全部そろっていない場合は、実際のアンプにないコントロールを12時の方向にしたときに「ニュートラル」、つまりオリジナルのサウンドにマッチさせます。このようにEQでも自在な音色調整ができます。以下はトレブル、ミドル、ベースの各コントロールが全部そろっていないアンプです。

アンプ	オリジナルのトーン・コントロール
AC15/AC30（チャンネル2）	トップ・カット・コントロールのみ
AC15TB	トレブル＆ベース
AC30TB	トレブル、ベース、カット・コントロール
TWEED 1x12	トーン・コントロールのみ

Valvetronixアンプの[PRESENCE]コントロールについても同様です。元のアンプでプレゼンス・コントロールがない場合は、Valvetronixアンプの[PRESENCE]コントロールを左いっぱいに回しきると「ニュートラル」の位置になります。つまりオリジナルのアンプ・サウンドが再現できる位置です。該当するアンプ・モデルには、BLACK 2x12、TWEED 1x12があります。AC15、AC15TBXでは、トップ・カット・コントロールとして動作します。

真空管の話

真空管のことをイギリスでは「バルブ」、アメリカでは「チューブ」と呼びます。このように国によって名称は違いますが、Valvetronixアンプの16個のアンプ・モデルの心臓にはいずれも、あの真空のガラス管が息づいています。本書では、各アンプの故郷を尊重して、イギリス生まれのアンプは「バルブ」、アメリカ生まれのアンプは「チューブ」と呼んでいます。

Q&A
ECC83プリアンプ・バルブと12AX7プリアンプ・チューブの違いは?
まったく同じです。ECC83はイギリス名、12AX7（別名7025）はアメリカ名です。

パワーアンプの精度

すでに述べたように、優れたチューブアンプのパワー段での処理が、アンプのサウンド、ドライブ感、動作に大きな影響を与えています。パワーアンプの動作（A、A/B級）、真空管の種類（EL84、EL34、6L6、6V6）、負帰還回路特性、パワー段のスピーカーとの応答性（ダンピング特性）。これら要素が音色に重要な役割を果たしています。本機では米国特許取得済みのValve Reactor技術を採用しているため、このような要素が忠実に再現できます。たとえばアンプモデルのAC30TBを選択すると、ValvetronixアンプのValve Reactorパワー段はA級パワー段、無帰還という設定に切り替わります。

更にリアパネルのパワー・セレクト・コントロールを使って、演奏する部屋のサイズやオリジナルのモデルに最適な出力ワット数を設定できます（たとえばオリジナルのAC15は15ワット、TWEED 1x12は18ワット、AC30TBは30ワットです）。

音量アップ

どのチューブアンプにも共通したことがあります。音量を最高にアップしたときにベストなサウンドになるということです。デシベル値が高いほど、いいサウンドになるというのではなく、真空管の負荷がかかるほど独特のトーンが生じてサウンド全体に広がり感が出るのです。Valve Reactorパワーアンプの精度のおかげで、Valvetronixアンプについても同じことが言えます。ですから、できるだけ音量を上げて使うことをお奨めします。上述したようにパワー・セレクト・コントロールもあるので、自分の部屋、ガレージ、スタジオ等、弾く場所に合ったワット数が設定できます。

次に各アンプ・モデルについて説明しましょう。

1. AC15

素晴しいサウンドの1962年製VOX AC15のチャンネル2をモデリングしました。VOX AC15は1x12"、15W、デュアル・チャンネルのチューブ・コンボで1958年に発売されました。VOXアンプの初デビューでした。その名前の由来は単純です。ACとはAmplifier Combination（アンプ・コンビネーション）、15はもちろん15W。コンパクトなキャビネット、パワー、内蔵トレモロ/ビブラート（チャンネル1のみ）、そして素晴しい音色で、当時人気のあったブリティッシュ・バンドと共に大ヒットになり、チャートのトップを賑わすバンドもVOXアンプを喜んで推奨したものです。

このアンプのユニークな音色は、主に無帰還A級動作のEL84出力バルブ（チューブ）を使用したことによります。モデリング対象となったその他のVOX社の3機種（AC15TB、AC30、AC30TB）についても同様です。このデザインのため、パワーとディストーションが増し、アンプのボリュームを上げるほど益々顕著になる第二、第三倍音で更に厚みがかかりました。本機のパワー段では、AC15だけでなくその他のVOXモデルを選ぶと、Valve Reactor技術によって自動的に無帰還A級動作に設定されます。

この時代のほとんどのアンプと同様、AC15も「シンプル」の極みで、モデリング対象となったチャンネル2にはボリュームとトップ・カットのコントロールしかありません。本機でAC15を選択すると、[GAIN]コントロールがオリジナルのボリューム・コントロールの役目を果たします。また本機[PRESENCE]コントロールはオリジナルのトップ・カット・ツマミに相当します。AC15のトップ・カット・ツマミ（*1）が高域成分を調整する動作は「普通」のトレブル・コントロールとはかなり異なります。これをうまく使いこなせば、かの有名なVOXアンプの「きらびやか」なサウンドを忠実に再現できます。

[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールはそれぞれ12時の方向に設定すると「ニュートラル」、つまりオリジナルそのままの音色が得られます。

> ***1:** オリジナルのAC15搭載のトップ・カット・ツマミは、常識とは逆の働きをするので注意してください。オリジナルのモデルでは右に回すほど「カット」されますが、本機では、一般的な常識に従って[PRESENCE]コントロールを右に回すほど「きらびやか」になり、ゼロに近くなるほど「カット」量が大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成: EF86 x 1、ECC83 x 3、ECC82 x 1（プリアンプ内）、EZ81 x 1（整流器）、EL84 x 2（パワーアンプ内）

2. AC15TB

1950年代後半に登場したAC15に対し、AC15TBはAC15の低出力パワー・アンプの甘美で理想的な音色特性と、AC30のトップ・ブースト・チャンネルの自由度の高い音色を組み合わせた、モダンなアンプです。これに更に甘さを加えるため、セレッション製12インチ"BLUE"スピーカー、リバーブ・コントロール、マスター・ボリュームも導入しました。その結果できたのが、ヴィンテージVOXアンプのトーンとモダンな特徴をうまく融合した、自由度の一層高い15Wのチューブ1x12コンボです。

オリジナル・モデルのトーン・コントロールはトレブルとベースだけなので、本機の[TREBLE]と[BASS]コントロールでトーンを調整し、[MIDDLE]（12時の方向でオリジナルの値）と[PRESENCE]（最大でオリジナルの値）を使って、更に自在な音色の調整ができます。「VOXらしさ」を最大限に出すために、[PRESENCE]コントロールがオリジナルのAC15のトップ・カット・ツマミと同じ機能を持つように設計しました。ただし、AC15のアンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。

VOXアンプのトレードマークのサウンド通り、このモデルは響のいいクリーン・トーンと、スムーズながらも理想的な倍音の波打つオーバードライブ・サウンドを生み出します。

> **オリジナル・アンプのバルブ構成:** ECC83 x 5（プリアンプ内）、5Y3GT x 1（整流器）、EL84 x 2（パワーアンプ内）

3. AC30

前述したようにVOX AC15は50年代後半にブリティッシュ・バンドの間で大ヒットになりました。ところが、AC15を愛用するバンドの人気が高まるにつれて、もっとパワフルなアンプへの要求も高まりました。AC15は15Wにしてはかなり大音量でしたが、1000人以上の観客が叫ぶ中では蚊の鳴き声です。50年代後半から60年代前半は、ギター・アンプの音をPAに送らず（PAはもっぱらボーカル用に使われました）、バンドの背後に立ち並ぶアンプが音を出す役目を背負いました。このためVOX社は大音量のアンプの必要性に答えるために喜んで開発に取りかかりました。

その成果が発表されたのが1959年。30W、2x12のAC30です。トップのブリティッシュ・バンドが早速AC30にグレードアップし、何か月かして、そのバンドの1組が華やかなギター・インストルメンタルのシングルでチャートのトップに踊り出ました。そこで他のブリティッシュ・バンドのほとんどが、追い付け、追い越せとばかりにAC30を採用し、AC30は当時の「ビート・ブーム」の火付け役になりました。さらに、60年代にはイギリスのバンドがアメリカに波のように押し寄せ成功を収めた、かの有名な現象「ブリティッシュ・ロックのアメリカ上陸」の原動力ともなりました。この先頭に立ったのはリバプール出身の4人組で、VOXアンプにとって最も有名な大使となったのです。

モデリングの対象となったのは、ブリティッシュ・ロックのアメリカ上陸を定義づけた、あのクラシックな音色を包括した、AC30のノーマル・チャンネルのサウンドです。AC15と同様、AC30のノーマル・チャンネルもツマミがボリュームとトップ・カット（本機では[GAIN]と[PRESENCE]（*2）で代用）しかありません。AC30はAC15を強化したものと考えていいのですが、セレッション製12インチ"BLUE"スピーカーがもたらす音響特性と音の広がりは無視できません。

> ***2:** [PRESENCE]コントロールはオリジナルのAC30のトップ・カット・ツマミと同じ機能を果たしますが、AC15アンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4、ECC82 x 1（プリアンプ内）、GZ34 x 1（整流器）、EL84 x 4（パワーアンプ内）

4. AC30TB

AC30は絶大なる成功を収めましたが、更なる音色的自由度とゲインを望むアーティストも多く、VOX社はこれに応えて、ECC83バルブ（チューブ）を追加した音色回路を持つアンプを開発しました。この回路が「トップ・ブースト」です（*3）。トップ・ブーストをAC30に追加した際に、ブリリアント・チャンネルのゲインを上げ、EQコントロールも2つ追加してトレブル、ベース、カットの3つのトーン・コントロールを搭載しました。これがギター・プレーヤーたちに瞬く間にヒットとなった、と言ってもまだ過小評価です。このグッと迫る力強いサウンドは60年代中盤の多くの有名バンドのトレードマーク的サウンドになりました。

> ***3:** VOXは当初、この回路を「ブリリアンス・ユニット」と呼びましたが、後に「トップ・ブースト」と呼ばれて有名になりました。トップ・ブーストは最初、改造モデルにのみ導入されましたが、それほど難しくない改造とはいえ、ほとんどの人はあまり手を付けられませんでした。（電気回路が得意な人もいるかもしれませんが、著者にとって電気回路ををいじるのはあんまり楽しいこととは言えません。）やがて1964年、トップ・ブーストはAC30の標準仕様として搭載されるようになったのです。

[PRESENCE]コントロールはオリジナルのカット・ツマミの機能を果たし（但し、ゼロに近くなるほどカット量が大きくなります）、[GAIN]、[TREBLE]、[BASS]コントロールは、オリジナルのボリューム、トレブル、ベース・コントロールを再現します。[MIDDLE]コントロールは12時の方向でオリジナル・サウンドとなります。

このアンプ・モデルは、スムーズかつ繊細なトップ・エンド、威厳のある野太いオーバードライブ、オリジナル・アンプをギター・プレーヤーの必須アイテムにしたA級音色を併せ持つ、豊かで華やかなクリーン・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 5、ECC82 x 1（プリアンプ内）、GZ34 x 1（整流器）、EL84 x 4（パワーアンプ内）

5. UK BLUES

非常に珍しいハンド・ワイヤリングによって、60年代初期、古き良きイングランドで作られたヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。このアンプはTWEED 4x10の回路を元に設計されましたが、別のタイプの真空管、トランスフォーマーを使用し、クローズ型キャビネットに出力インピーダンスの高い全く別タイプのスピーカーを採用するなど、基本要素でいくつかの変更を加えたため、ユニークな音色になっています。この30ワット出力のアンプの音量を一杯に上げると、ロックン・ロール・サウンドとして永遠に変わらないクランチを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3（プリアンプ内）、GZ34 x 1（整流器）、KT66 x 2（パワーアンプ内）

6. UK '70S

1969年UK作製、100ワット、プレキシグラスのフロント、4つのインプットを持つヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。オリジナル・モデルにはマスター・ボリュームがなかったので、ゲインをフルアップして演奏したものです。

ボリュームをフルアップすると、そのパワフルな音量で壁にもビビッと亀裂が入るほどスゴイ。ということは深夜に自分の部屋でこっそり練習なんてもってのほかでした。ところがValvetronixアンプでは[GAIN]コントロールはオリジナルのハイ・トレブル・ボリュームとして機能し、[VOLUME]と[MASTER]ボリュームがあるので、オリジナルのアンプでゲインをフルアップしたときのサウンドをそのまま再現しつつも、他のプログラムに合わせて音量レベルを抑えることができます。これなら若くして難聴になることもないし、お隣さんが警察に苦情電話をかけることもありません。リア・パネルにあるパワー・セレクト・コントロールもお忘れなく。

本機の[GAIN]コントロールをフルアップすると、演奏のダイナミクスのわずかな変化にも優雅に応答する、クラシック・ロックのあの有機的なオーバードライブが瞬時に体験できます。また、ギターのボリューム・コントロールを下げると、ユニークでクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3（プリアンプ内）、EL34 x 4（パワーアンプ内）

7. UK '80S

1983年、UK製100Wマスター・ボリューム付きシングル・チャンネルのヘッドをモデリングしました。アンプの音量をいっぱいに上げなくてもクランチ・トーンが生み出せるモデルです。ゲイン・コントロールをフルアップすると、80年代を制覇した、うなるような太いハード・ロック・サウンドが得られました。身体にピッタリはりついたタイツのようなズボンでハリケーンのようにロックしたヨーロッパのバンドや稲妻に乗ったスピード狂のアメリカのバンドにとって、このモデルは唯一の選択肢です。

オリジナルのアンプは独特のハードなクランチ・サウンドで有名になりましたが、そのサウンド一辺倒ではなく、本機のモデルもギターのボリュームを絞ると、ロックのコード・ワークに最適な、どんなミックスでも音のよく通るブライトでクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3（プリアンプ内）、EL34 x 4（パワーアンプ内）

8. UK '90S

100Wデュアル・チャンネル・ヘッドのリード・チャンネルをモデリングしました。プリアンプでディストーションをかなりかけられます。このアンプはUK '80Sに代わるもので、ゲイン、機能、自由度を要求するロック・ギタリストに応えて開発され、すぐに「業界の標準」になりました。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4（プリアンプ内）、EL34 x 4（パワーアンプ内）

9. UK MODERN

UK '80SとUK '90Sを融合させた100Wのモダン・アンプのハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。UK '90Sの心地よいトーンのハイ・ゲイン・プリアンプ段、モダンなサウンドと、UK '80Sのパワー段が持つ、うなるようなパンチの効いたファットでヘヴィーなサウンドを組み合わせています。その結果、個々の音に枠組みを持ちながらも、かなり攻撃的で鼻息の荒いモンスター・サウンドに仕上がっています。本機の[GAIN]コントロールをフルアップにすると、ローエンドはぐっと締まってパンチ力を維持しながら、ソウルフルなフィードバックにむせぶギターソロが弾けます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4（プリアンプ内）、EL34 x 4（パワーアンプ内）

10. RECTO

カリフォルニア産、150W、メタル・プレートに身を包んだ猛獣のごときハイ・ゲイン・アンプのモダン・ハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。暗くて奥底の知れないローエンド、きらめく高域、怪獣ゴジラのようなゲインは、できるだけ低くチューニングしたギターや7弦ギターを振るったメタル・アクトに最適です。

[GAIN]コントロールを低く設定すると、空間を広げる豊かな高域倍音によって強調された特有の明るくクリーンなサウンドを生みます。このためRECTOはカントリー&ウエスタンのピッキングにはお奨めできませんが、海底よりもっと低いチューニングでニューメタルを弾くような場合はRECTOがピッタリです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 5（プリアンプ内）、5U4G x 4（整流器）、6L6 x 6（パワーアンプ内）

11. US HIGAIN

蛇皮でカバーされた1991年製100Wアンプ・ヘッドのオーバー・ドライブ・チャンネルをモデリングしました。このハイ・ゲイン・アンプはHot Rod（ホット・ロッド）というレースカーを作った人がデザインしたもので、ボリュームのパワーは凄いの一言です。

オープンなローエンドと圧縮した中/高域を組み合わせた、パワフルでヘヴィーなサウンドで、どんな極端なゲイン設定でも芯の通った迫力のあるトーンになります。この特性は世界の有名なプレーヤーの間で好まれ、多目的な使用が可能となっています。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 4（プリアンプ内）、6L6 x 6（パワーアンプ内）

12. BOUTIQUE OD

非常に珍しく非常に高価で評判の高い100Wヘッド、オーバードライブ・スペシャルのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。完全受注生産でハンド・メイドされるこのアンプは、サックスのようなレガート・ソロに最適です。本機の[GAIN]コントロールを上げたときの素晴しいサスティーンはスムーズでソウルフルです。女性の柔らかな丸みのある声に似ています。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3（プリアンプ内）、6L6 x 6（パワーアンプ内）

13. BOUTIQUE CL

これもBOUTIQUE ODと同じメーカーの、完全受注生産でハンド・メイドされる高級アンプのクリーンチャンネルをモデリングしました。最高級のブティック・アンプを何種類か試聴しましたが、これがダントツでした。ケバケバしい赤いカバーはお世辞にもセンスがいいとは言えませんが、クリーンサウンドは抜群です。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音は、シングル・コイル・ピックアップに最適です。また、ピッキング・スタイルやピック・アップの選択に対する反応も早く、コードを弾いたときのサウンドはしびれるように優雅で華やかです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3（プリアンプ内）、6L6 x 6（パワーアンプ内）

14. BLACK 2x12

モデルとなったデュアル・チャンネルのフロント・ブラック・アンプはカントリーやブルース・プレイヤー必須の2x12コンボです。深みのあるピアノ風ベース音を含んだタイトなクリーンサウンドです。

トーンが純清だけでなく、特にシングル・コイル・ピックアップで使用するとクラシックなシカゴのブルース・トーンを生み出します。オリジナルを忠実に再現するため、ボリュームをいっぱいに上げると低域が「しゃがれた」サウンドになります。このクラシックなBLACK 2x12オーバードライブを再現するには、本機の[GAIN]をフルアップ、[BASS]は完全に絞り、[MIDDLE]はフルアップ、[TREBLE]は好みの位置に設定してください。オリジナル・アンプのEQコントロールがプリアンプのゲイン・ステージ前に位置しているので、このように中域を上げることで、中域内のディストーションが強調され、その結果甘く艶やかなブルース・トーンが生まれます。

オリジナル・モデルにはプレゼンス・コントロールはなく、ブライト・スイッチがありました。本機では[PRESENCE]コントロールがブライト・スイッチの役目を果たします。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 4 & 12AT7（別名ECC81） x 2（プリアンプ内）、6L6 x 4（パワーアンプ内）

ヒント: ペダル・セクションのACOUSTICと組み合わせるとベストです。

15. TWEED 1x12

1958年カリフォルニア州フラートンでツイード地にくるまれて誕生したアンプをモデリングしました。18W、1x12のシンプルなチューブ・コンボです。ボリューム・ツマミの他にはトーン・ツマミが一つあるだけで、これでトレブルのカット/ブーストを調整しました。本機の[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]を使って次の要領でオリジナル・モデルのトーンを再現します。

オリジナル・モデルのトーン・ツマミを絞った状態を再現するときは、[BASS]コントロールをいっぱいに上げ、[TREBLE]と[MIDDLE]コントロールを9時の方向に設定します。（[PRESENCE]コントロールをオフに設定）

オリジナル・モデルのトーン・ツマミをいっぱいに上げた状態を再現するときは、[TREBLE]を上げ[MIDDLE]と[BASS]コントロールを9時の方向に設定します。（[PRESENCE]コントロールをオフに設定）

ヒント: オリジナル・アンプにはプレゼンス・コントロールがないので、本機の[PRESENCE]コントロールがオフのときにオリジナル・サウンドが再現されますが、好みによって[PRESENCE]コントロールを上げると、サウンドにきらめきが加わります。

オリジナルの音色はクリーン・サウンドでは比較的単純ですが、オーバードライブさせると倍音豊かな、うなるようなサウンドになり、10まで上げると、特にシングル・コイル・ピックアップで演奏時には、50年代や60年代のロカビリー、ロックン・ロール・サウンドを生み出します。

ヒント: 本機リア・パネルのパワー・セレクト・スイッチは、AD60VTでは15Wに、AD120VTでは15W x 2に設定すると、更に忠実なオリジナル・サウンドが再現できます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 2（プリアンプ内）、5Y3GT x 1（整流器）、6V6 x 2（パワーアンプ内）

16. TWEED 4x10

もともとベース・ギター用に設計された1959年製4x10コンボ・アンプをモデリングしました。スムーズで抜けの良いオーバー・ドライブ・サウンドは、リズム・アンド・ブルースに最適で、6弦プレーヤー達はすぐにこのアンプに飛びつきました。またピッキングの強弱やギターのボリュームに敏感に反応します。つまり、アンプをいっぱいにドライブしているときにギター・ボリュームを落とすと、クリーンで豊かな音色が出ます。またピッキングの強弱によっては、一つ一つの音やコードのクリーン度/ディストーションの程度を変えたりすることができます。

もう一つの音色特性は、アンプをハードにドライブしたときに整流器GZ34が音に加える、クラシックなチューブ・アンプの「スポンジ感のある」サウンドです。[GAIN]コントロールをフルアップしハードにピッキングすると、最初のアタックから音がポワーンと弛むのが次第にわかってくるはず!

ヒント: [MIDDLE]と[TREBLE]コントロールは互いに反応しあうので、[MIDDLE]コントロールを高く設定すると、自動的にトレブルが強調されます。これを相殺するために[TREBLE]コントロールを若干下げるといいでしょう。逆に[MIDDLE]コントロールを低く設定するとトレブルが弱くなるので、[TREBLE]コントロールを若干上げます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 2（プリアンプ内）、GZ34 x 1（整流器）、5881s x 2（パワーアンプ内）

故障とお思いになる前に

1. [POWER]スイッチをONにしても電源が入らない

- リア・パネルのAC電源端子に電源コードが接続されていますか?
- コンセントに電源コードが接続されていますか?
- コンセントが故障していませんか?
- 電源コードが損傷していませんか?

2. アンプから音が出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか?
- ギター・シールドが正しく接続されていますか?
- ギター・シールドが断線していませんか?
- トップ・パネルの[MASTER]ボリュームが小さい値になっていませんか?
- PHONE OUT端子にヘッドホンやケーブルが接続されていませんか?
  その場合は接続を外してください。
- アンプがサイレント・チューニング・モードになっていませんか?
  サイレント・チューニング・モードのときは、バンク・ディスプレイに⎕と表示されます。その場合は[TUNER/CANCEL] キーを押して解除してください。
- [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]の設定を確認してください。
  アンプ・タイプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]の値が小さいと、オリジナル・アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。またペダル・エフェクトを使用している場合は[DRIVE]、[LEVEL]ツマミの設定も確認してください。
- マニュアル・モードの場合(バンク・ディスプレイに⎕と表示)、ペダル・エフェクトの[DRIVE]、[LEVEL]、[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[MASTER]のコントロール類が0または最小値になっていませんか?

3. アンプの音量が十分出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか?
- [MASTER]ボリュームが下がっていませんか?
- リア・パネルの[POWER SELECT]の設定はどうですか?
- EXTERNAL SPEAKER OUT端子に高インピーダンス(16オーム等)のスピーカーが接続されていませんか?
- [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]の設定を確認してください。
  アンプ・タイプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]の値が小さいと、オリジナル・アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。またペダル・エフェクトを使用している場合は[DRIVE]、[LEVEL]ツマミの設定も確認してください。
- マニュアル・モードの場合(バンク・ディスプレイに⎕と表示)、[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[MASTER]コントロールが小さい値になっていませんか?またペダル・エフェクトを選択している場合は、[DRIVE]、[LEVEL]ツマミの設定も確認してください。

4. LINE OUT端子やPHONE OUT端子から音が出ない

- [LEVEL]ツマミが小さい値になっていませんか?
- 音がアンプから出力されているか確認してください。
  このとき、PHONE OUT端子にヘッドホンやケーブルが接続されていると内蔵スピーカーから音が出ませんので、PHONE OUT端子への接続を外してください。
  アンプからサウンドが出力されていない場合は、前述の項目2を参照してください。
  アンプからサウンドが出力されている場合は、ヘッドホン、接続ケーブルが故障/断線していないか確認してください。

5. モジュレーション、ディレイ、リバーブのエフェクトがかからない

- 各エフェクト・セクションのLEDが点灯していますか?
  LEDが消灯しているときはエフェクトがオフになっています。[TYPE]スイッチを押して、エフェクト・タイプを選んでください。
- 各エフェクトの[DEPTH]ツマミが小さい値になっていませんか?
  [DEPTH]ツマミの設定を調整してください。
- [BYPASS]スイッチがオンになっていませんか(ORIGINAL VALUE LEDが点灯した状態)?
  その場合はもう一度スイッチを押してバイパスを解除してください。ORIGINAL VALUE LEDは消灯します。

6. ACOUSTICの使用中に高音が歪む

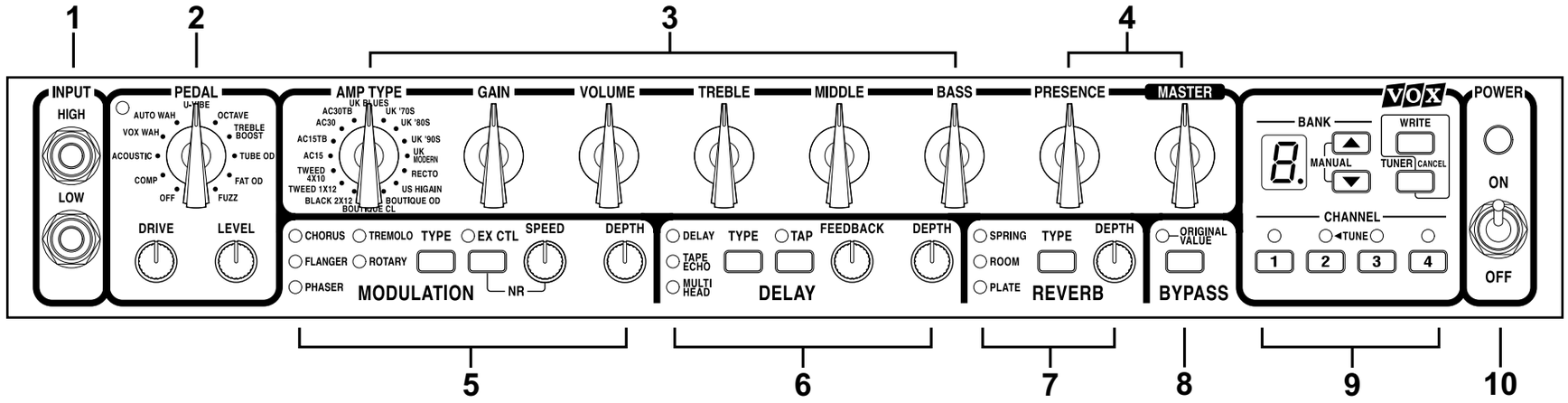
- ドライブをかけすぎていませんか?
  ギターの音量を下げる、ACOUSTICのドライブの設定を下げる、またはギターをアンプの[LOW]端子に接続してください。ペダル・エフェクト(29ページ)で説明したように、アコースティック・ギターのサウンドを出すために高音をブーストするので、高音で歪みが生じるのです。

仕様

アンプ・タイプ数: 16
エフェクト数
　ドライブ・タイプ: 10
　モジュレーション・タイプ: 5
　ディレイ・タイプ: 3
　リバーブ・タイプ: 3
　ノイズ・リダクション: 1
プログラム数: 32 (8 バンクx 4 チャンネル)
入力
　トップ・パネル: 2 (HIGH、LOW)
　リア・パネル(AD60VT): LOOP RETURN x 1、FOOT CONTROLLER端子x 1
　リア・パネル(AD120VT): LOOP RETURN x 2 (L&R)、FOOT CONTROLLER端子x 1
出力
　リア・パネル(AD60VT): LOOP SEND x 1、PHONE OUT x 1、LINE OUT x 1、EXTERNAL SPEAKER OUT x 1
　リア・パネル(AD120VT): LOOP SEND x 2 (L&R)、PHONE OUT x 1、LINE OUT x 2 (L&R)、EXTERNAL SPEAKER OUT x 2 (L&R)
パワーアンプ出力
　AD60VT: 最大60W RMS @ 8Ω
　AD120VT: 最大60W x 2 RMS @ 8Ω
スピーカー
　AD60VT: CELESTION社製 VOXオリジナル(12inch 8Ω) x 1
　AD120VT: CELESTION社製 VOXオリジナル(12inch 8Ω) x 2
チューナー測定範囲: A0～C7 (27.5Hz～2093Hz)
　キャリブレーション: A=438Hz～445Hz
信号処理
　A/D変換: 20bit
　D/A変換: 20bit
　サンプリング周波数: 48KHz
電源: 100VAC、50/60Hz
消費電力
　AD60VT: 73W
　AD120VT: 135W
外形寸法(W x D x H)
　AD60VT: 530 x 267 x 559 (mm)
　AD120VT: 699 x 267 x 559 (mm)
重量
　AD60VT: 19.6 kg
　AD120VT: 26.2 kg
付属品: 電源コード
オプション: VC-4 フット・コントローラ

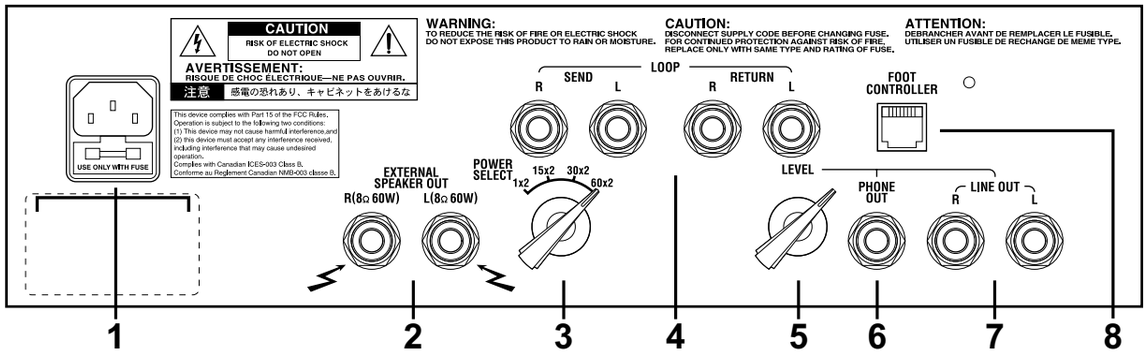
仕様および外観は改良のため予告無く変更される場合があります。

トップ・パネル:

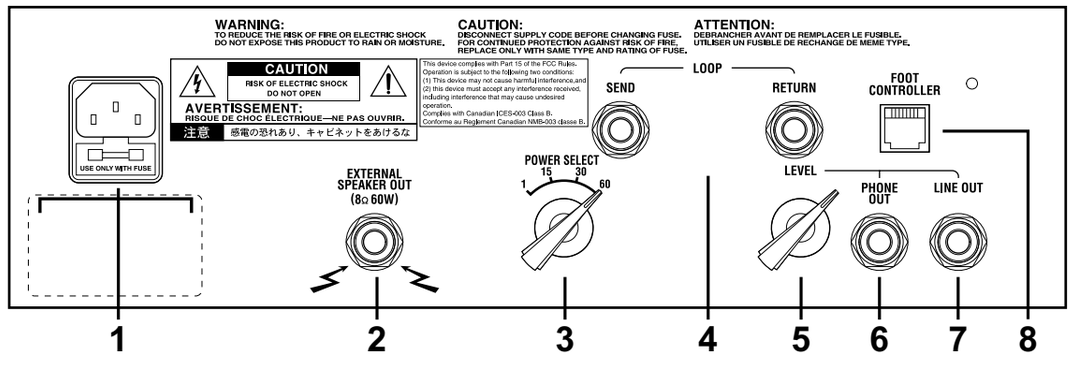


リア・パネル:

AD120VT



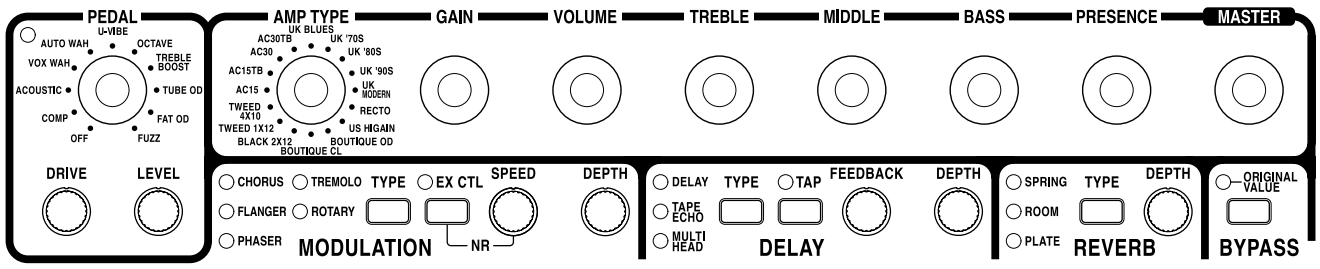
AD60VT



プログラム・シート

設定をメモするためのシートです。好みの音が作れたらその設定を書き留めましょう。
下のプログラム・シートはコピーして使用することをおすすめします。
NR、TAP TEMPO、POWER SELECTIONコントロール（リア・パネル）の設定も忘れずに書き留めてください。

PROGRAM NAME:



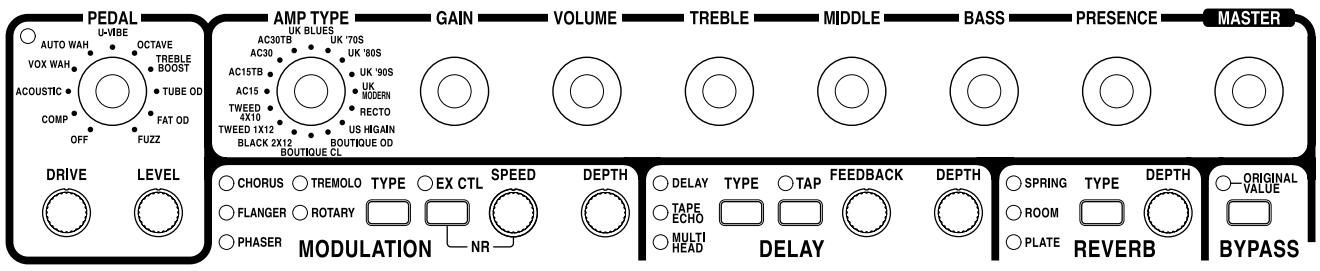
NR (NOISE REDUCTION):

TAP TEMPO:

POWER SELECT:

NOTE:

PROGRAM NAME:



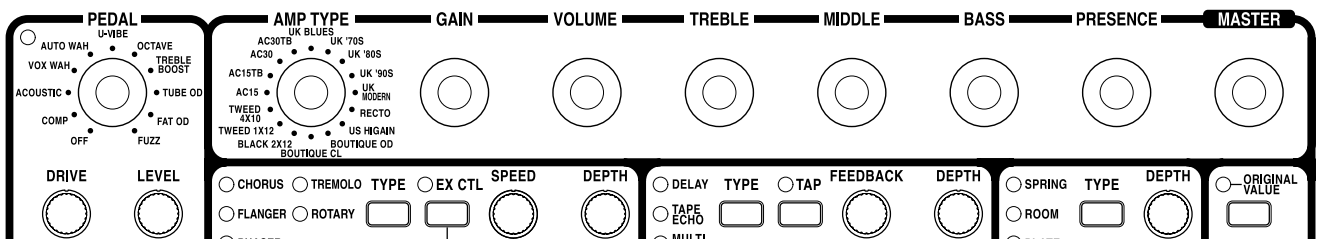
NR (NOISE REDUCTION):

TAP TEMPO:

POWER SELECT:

NOTE:

PROGRAM NAME:



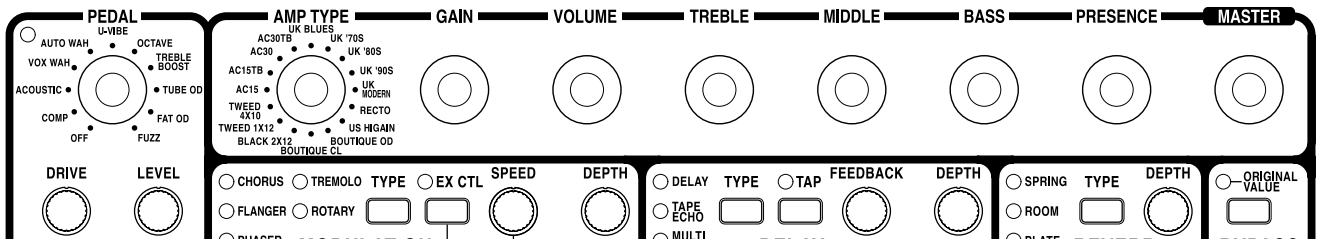
NR (NOISE REDUCTION):

TAP TEMPO:

POWER SELECT:

NOTE:

PROGRAM NAME:



NR (NOISE REDUCTION):

TAP TEMPO:

POWER SELECT:

NOTE:

ギターリストのためのガイドブック

Ⓙ ③

VOX AMPLIFICATION LTD. 9 Newmarket Court, Kingston, Milton Keynes, MK10 OAU, UK http://www.voxamps.co.uk/

©2001 VOX AMPLIFICATION LTD.

Printed in Korea